



教育委員会の点検・評価報告書

(平成22年度分)

平成23年11月
石狩市教育委員会

目 次

点検及び評価について

- 1 点検及び評価の対象について 1
- 2 点検及び評価の手法と方針について 1
- 3 学識経験者の知見の活用について 1

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

- 1 教育委員会の活動状況
 - (1) 教育委員会会議の状況 2
 - (2) 教育委員会会議での審議事項 2
 - (3) 教育委員会会議以外の活動状況 7
 - 2 教育に関する事業の点検及び評価
 - (1) 主要事業等の内容 11
 - (2) 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性 13
- 平成23年度（22年度実施事業）事業評価シート 48

点検及び評価に対する学識経験者による意見について 108

資 料

- 資料1 教育委員会委員名簿 112
- 資料2 石狩市教育委員会外部評価委員会設置要綱 113

点検及び評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の改正により、平成20年4月より教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

石狩市教育委員会は、地教行法に基づき、より効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、平成22年度の教育委員会の活動状況及び主要な施策・事業について、点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ「教育委員会の点検・評価報告書（平成22年度分）」としてまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 点検及び評価の対象について

平成22年度の教育委員会の活動状況のほか、教育委員会において実施した施策・事業等を対象としています。

2 点検及び評価の手法と方針について

教育委員会会議の開催及び審議の状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、教育に関する事業を個別に評価し、課題を踏まえ、今後の改善に向けた方針を明らかにしています。

3 学識経験者の知見の活用について

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取組への活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方から、点検及び評価に対する意見や助言をいただき、本報告書に付して報告します。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び石狩市教育委員会会議規則に基づき、教育長を含む5人の委員が主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること、教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議しています。

それぞれの会議においては、事務局から付議された議案・報告案件及び協議事項・報告事項について、委員相互の入念な審議・協議・意見交換などを経て決定しています。

また、平成22年4月にスタートした「新教育プラン」は、教育委員会の会議において協議・審議を重ね策定されたものであり、この計画の確実な推進を図るため、様々な教育課題や取組などについて、審議・協議並びに教育現場の視察や関係者との意見交換を重ねてきました。

(1) 教育委員会会議の状況

教育委員会会議については、石狩市教育委員会会議規則第2条第2項の規定に基づき、毎月25日前後の日程で定例会を開催、また同条第3項の規定に基づき、必要に応じて臨時会を開催しています。

平成22年度については、下記のとおり合計15回の会議を開催しました。

また、会議以外に事務局と施策に関する勉強会も随時実施しています。

- ① 定例会 12回（毎月1回）
- ② 臨時会 3回（8月・10月・3月）

(2) 教育委員会会議での審議事項

教育委員会会議での審議事項については、石狩市教育委員会事務委任規則の規定に基づき、下記の66件を審議しました。

また、上記のほか事務局報告事項として同規則に規定されていない教育施策に関わる事業等42件について、それぞれ質疑応答を行いました。

付議案件については、下記一覧のとおりです。

- ① 石狩市教育委員会事務委任規則に基づく審議事項 66件
 - ・議決案件 40件 ・協議案件 16件 ・承認案件 4件
 - ・報告案件 6件 ・同意案件 0件
- ② 事務局報告事項 42件

③ 付議案件一覧

日 時	付 議 案 件
22. 4. 22	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石狩市奨学審議委員会委員の委嘱について ・ 石狩市文化財保護審議会委員の委嘱について ・ 石狩市民図書館協議会委員の委嘱について ・ 小学校用教科用図書の共同採択の承認について ・ 石狩市学校給食センター運営委員会からの答申について ・ 教職員の懲戒処分について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の服務規律等の実態に関する調査について ・ 第 22 回石狩市公民館まつり実施報告について
22. 5. 25	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食費の決定について ・ 平成 22 年度一般会計補正予算（第 1 号補正）について ・ 石狩教育研修センター組合規約の変更について ・ 石狩市社会教育委員の委嘱について ・ 石狩市学校給食センター運営委員の委嘱について ・ 平成 22 年度奨学生の決定について ・ 教職員の懲戒処分の内申について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育プラン・子どもの読書活動推進計画・市民図書館ビジョンの進行管理について ・ 平成 22 年度石狩市教育委員会の点検・評価の実施について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 21 年度社会教育施設等の利用状況について ・ 平成 22 年度市内小中学校の児童生徒数・学級数について ・ 平成 21 年度児童生徒の問題行動等調査結果速報について ・ 平成 22 年度市民図書館 10 周年事業の概要について ・ 学校給食における異物混入について
22. 6. 24	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公文書開示決定への異議申立てに対する決定について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育プラン等の進行管理について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 22 年度 C A P プログラムの実施について ・ 平成 22 年度「いしかり情操教育プログラム」事業について ・ 生振小学校「ユネスコ・スクール」加盟認定について ・ 平成 22 年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」について

日 時	付 議 案 件
22. 7. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年度学校給食費収納状況について ・学校給食における異物混入について ・特定事業主行動計画の策定について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会職員の人事異動について ・教職員の懲戒処分について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の点検・評価（平成 21 年度分）について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フューチャースクール推進事業について ・平成 22 年度情操教育スタートプログラム「おしゃべランド」の実施報告について
22. 8. 2 (臨時会)	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市立小学校の教頭に係る内申について
22. 8. 27	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度一般会計補正予算（第 2 号及び第 3 号補正）について ・平成 23 年度から使用する小学校用教科用図書の採択について ・公文書開示決定への異議申立てに対する決定について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度石狩市教職員研修サマーセミナー実施報告について ・平成 22 年度全国学力・学習状況調査について ・平成 22 年度「俳句のまち・いしかり」実施報告について
22. 9. 28	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専決処分の承認を求める件について ・教育委員会職員の人事異動について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市教育委員会表彰の見直しについて <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度全国学力・学習状況調査について ・第 55 回(平成 22 年度)石狩市民文化祭の開催について ・第 11 回(平成 22 年度)図書館まつりの開催について
22. 10. 4 (臨時会)	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市教育委員会委員長の選挙について ・石狩市教育委員会委員長職務代理者の指定について

日 時	付 議 案 件
22. 10. 26	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市教育委員会表彰規則の一部改正について ・平成 21 年度石狩市教育委員会の点検・評価報告書について ・教職員の訓戒措置について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育プランの進行管理について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度「いしかり情操教育プログラム」事業について
22. 11. 25	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度一般会計補正予算（第 7 号補正）について ・教職員の懲戒処分について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年度教育予算要求について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度全国学力・学習状況調査について ・提言書（いしかり子ども総合支援会議及び石狩市社会教育委員の会議）について ・第 55 回（平成 22 年度）石狩市民文化祭の実施報告について ・平成 23 年石狩市成人式実施要項（案）について ・第 11 回（平成 22 年度）図書館まつりの実施報告について ・平成 22 年度蔵書点検結果について ・石狩市教育委員会文化芸術支援制度について
22. 12. 22	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専決処分の承認を求める件について ・専決処分の承認を求める件について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の公表について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度「いしかり情操教育プログラム」事業の実施報告について ・NPO 法人石狩市文化協会の設立について
23. 1. 25	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市教育委員会委員長職務代理者の指定について ・平成 22 年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について ・教育委員会職員の人事異動について

日 時	付 議 案 件
23. 2. 24	<p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度全国学力・学習状況調査の分析結果（案）について ・平成 23 年度全国学力・学習状況調査の実施について ・石狩市奨学金の状況について ・石狩市教育委員会特定事業主行動計画（後期計画）素案について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年石狩市成人式の実施報告について ・石狩市民図書館宅配サービスについて ・平成 23 年度石狩市民図書館開館日について ・学級がうまく機能しない状況（いわゆる「学級崩壊」）に関する調査結果について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度一般会計補正予算（第 9 号補正）について ・平成 23 年度一般会計予算について ・石狩市条例の整備に関する条例について（石狩市公民館条例の一部改正について） ・石狩市教育委員会特定事業主行動計画（後期計画）について ・石狩市奨学金支給条例施行規則の一部改正について ・石狩市学び交流センター条例施行期日を定める規則の制定について ・石狩市学び交流センター条例施行規則の制定について ・石狩市特定事業主行動計画（後期計画）について ・教職員の懲戒処分について <p>(協議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の数値公表について ・小学校外国語活動について ・学校図書館等整備方針について <p>(報告事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年度石狩市・恩納村中学生交流事業について ・インフルエンザ様疾患による臨時休業の状況について ・平成 22 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について ・給食費改定による栄養価等の状況について ・交通事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について
23. 3. 11 (臨時会)	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩市立小中学校の教職員人事異動に係る内申について ・車両の損壊事故に係る和解及び損害賠償額の決定の件について
23. 3. 23	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会職員の人事異動について ・石狩市教育委員会行政組織に関する規則の一部改正について

日 時	付 議 案 件
	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩市教育委員会行政組織の見直しに伴う関係訓令の整備に関する訓令の制定について ・石狩市立学校管理規則の一部改正について ・石狩市公民館条例施行規則の一部改正について (協議事項) ・学校図書館等整備方針について (報告事項) ・市内小中学校におけるインフルエンザの状況について

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議の出席以外に教育委員会を代表した教育関係機関の会議や研修、関連行事への出席などの公務や教育現場への訪問・視察など実態把握を行っています。特に平成22年度においては、社会教育委員と意見交換を積極的に行いながら、社会教育委員の会議から提言を受けるなど両者が共通の目線で施策検討を行いました。

また、教育委員間の打合せや事務局職員からの報告・相談への対応及び情報交換など、教育行政や教育委員会会議運営に関わる調整活動も行っています。

平成22年度の主な活動は、次のとおりです。

※社会教育委員をはじめ、関係する審議会などとの密接な連携については、平成21年度の教育委員会の点検・評価において、外部評価委員から意見をいただいた内容でもあり、平成22年度においては、社会教育委員の会議から提言を受け、後述の「あい風寺子屋事業」などの取組などに活かされています。

① 各種関係機関等への出席・意見交換や研修活動 <14回>

- ・市長との意見交換（8・10・12月）
- ・北海道都市教育委員会連絡協議会定例総会（8月）
- ・石狩管内教育委員総会・部会・研修会（4・7・10月）
- ・市議会定例会本会議（6・9・12・3月）
- ・新任校長との交流研修会（6月）
- ・教育課題学習会（10月）
- ・社会教育委員との意見交換会（12月）

② 教育現場の実態把握（学校訪問・視察等） <13回>

- ・ことばの教室の活動状況の視察（6月）
（双葉小）
- ・学校給食センター視察（6月）
- ・情操教育プログラム「おしゃべランド」事業視察（7月）

- アートウォーム (2回 石狩小ほか 5校)
- 厚田総合センター (1回 厚田小ほか 3校)
- ・厚田区・浜益区教育関連施設視察 (7月)
- ・石狩市教職員研修サマーセミナー視察 (8月)
- ・小学校英語サポート事業視察 (9・10月)
 - (3回 緑苑台小・紅南小・花川小)
- ・情操教育セカンドプログラム「The Music」事業視察 (11月)
- ・子ども未来館視察 (11月)
- ・授業視察・管理職員との意見交換 (2月)
 - (生振小)

③ 各種行事・事業への参加 <29回>

- ・学校職員辞令交付式 (2回 4・3月)
- ・藤女子大入学式 (4月)
- ・双葉小開校式及び開校式典 (2回 4・10月)
- ・運動会・体育祭 (5・6月)
- ・教育関連記念式典・講演会 (5回 6・9・10・12・2月)
 - (市民図書館開設10周年記念ほか)
- ・市内単P会長・市教委交流会 (6月)
- ・教育関連市主催事業 (3回 9・10・12月)
 - (市民スポーツまつりほか)
- ・浜益高等学校閉校式典 (10月)
- ・ユネスコ絵画展授賞式 (10月)
- ・教育関連機関研究会・講演会 (5回 10・12・1・2月)
 - (北海道情緒障害教育研究会石狩大会ほか)
- ・学習発表会・文化祭 (10・11月)
- ・石狩市教育委員会文化芸術支援制度に基づく覚書調印式 (11月)
- ・学校職員永年勤続者表彰伝達式 (12月)
- ・成人式 (1月)
- ・教育委員会表彰式 (2月)
- ・恩納村・石狩市中学校交流訪問団歓迎式典 (2月)
- ・小中学校卒業式 (3月)

④ その他の教育行政の運営に関する諸活動 <通年>

- ・教育関連機関等への要請・調整活動
- ・教育行政に係る各種団体等との意見交換活動

⑤ 市民・団体等との意見交換の場への参加 <主なもの>

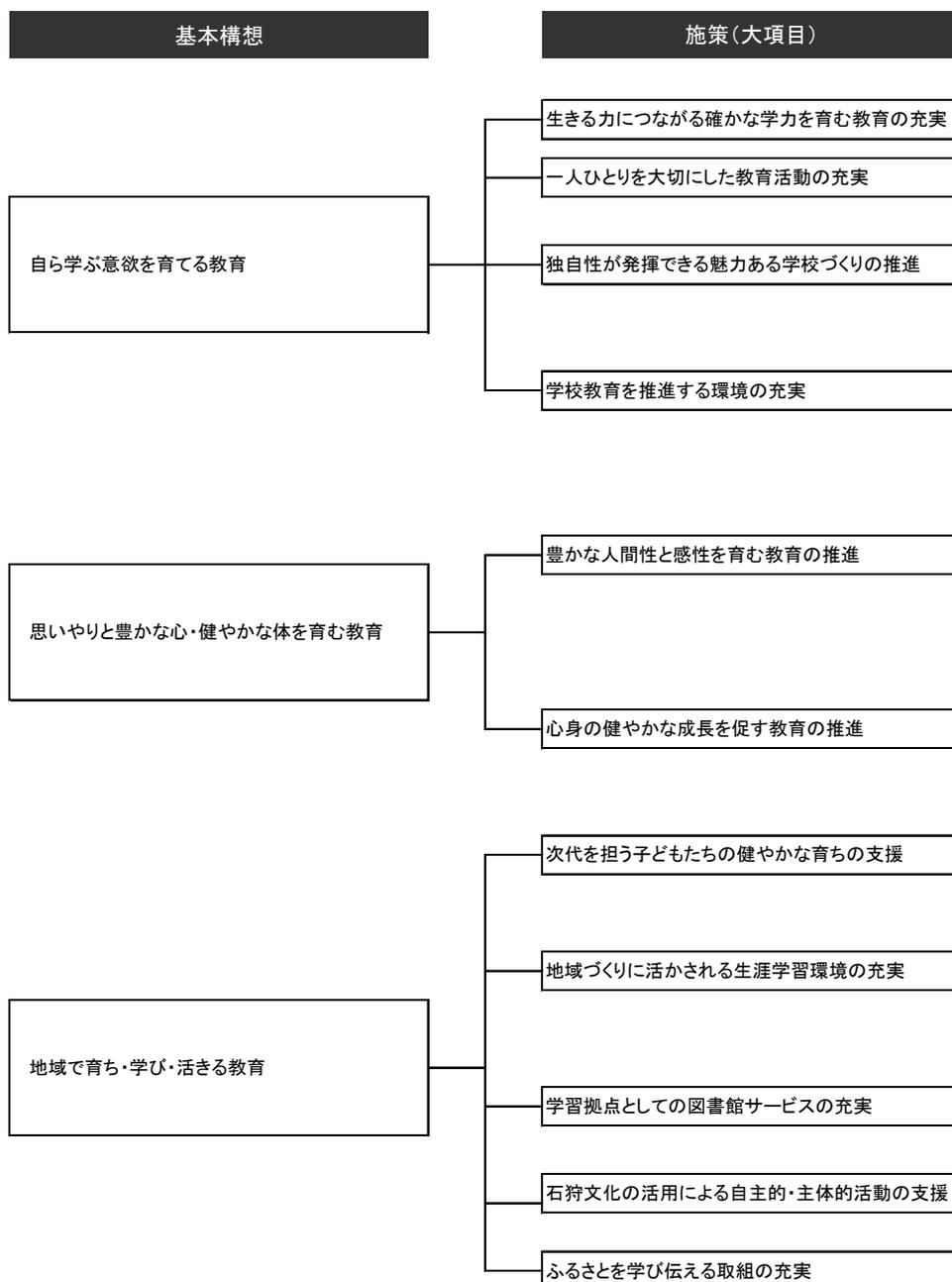
上記のような多様な公務活動のほか、市民への様々な情報発信、市民や関係団体との情報・意見交換を求めて、次に列挙したような各種団体の会合や行事にも積極的に参加しているほか、委員自らが自主的な活動を通じて、教育現場の実態把握や、自己研鑽にも努めています。

- ・第37回北海道情緒障害教育研究会石狩大会交流会（10月）
- ・石狩管内教育委員会委員交流会（10月）
- ・石狩市新年交礼会（1月）
- ・石狩市体育協会新年交礼会（1月）
- ・いしかり市民カレッジ新年会（1月）
- ・その他各種団体の会合や行事など

2 教育に関する事業の点検及び評価

点検及び評価の対象事業は、平成22年度の全事務事業のうち教育プランの施策体系に基づく、主要施策と関連する30件の事務・事業ですが、この事務・事業評価については、事業評価シート（市行政評価で使用するシートを活用）を作成し、各課による1次評価の後、パブリックコメントによる市民意見等を募集したうえで、2次評価を行い、教育に関する事業の点検・評価結果としました。2次評価については、「石狩市教育委員会外部評価委員会」において、学識経験を有する方の意見や助言をいただきながら実施しました。

○教育プランの施策体系



(1) 主要事業等の内容

平成22年度の教育に関する事業のうち、事業評価を行った主要な事業は次のとおりです。

事業名	新規・継続	ページ
1 学力向上推進事業 (教育委員会評価)	新規	48
2 外部指導者活用事業 (教育委員会評価)	新規	50
3 英語指導助手招致事業 (教育委員会評価)	継続	52
4 教育情報化整備事業 (教育委員会評価)	継続	54
5 子どもの読書推進事業 (教育委員会評価)	継続	56
6 読書・学習支援事業 (教育委員会評価)	継続	58
7 特別支援教育運営事業 (教育委員会評価)	継続	60
8 スクールカウンセラー設置事業 (教育委員会評価)	継続	62
9 不登校児童生徒支援事業 (教育委員会評価)	継続	64
10 石狩市教職員研修事業 (教育委員会評価)	継続	66
11 奨励プログラム推進事業 (教育委員会評価)	新規	68
12 小中学校校舎等改修事業 (教育委員会評価)	継続	70
13 小中学校施設整備事業 (教育委員会評価)	継続	72
14 学校給食事業 (教育委員会評価)	継続	74
15 就学援助事業 (教育委員会評価)	継続	76
16 奨学金支給事業 (教育委員会評価)	継続	78
17 芸術鑑賞会開催事業 (教育委員会評価)	継続	80
18 沖縄県恩納村交流事業 (教育委員会評価)	継続	82

事業名	新規・継続	ページ
19 青少年育成支援事業 (教育委員会評価)	継続	84
20 子どもへの暴力防止プログラム事業 (教育委員会評価)	新規	86
21 学校支援地域本部モデル事業 (教育委員会評価)	継続	88
22 生涯学習講座開催事業 (教育委員会評価)	継続	90
23 公民館管理運営事業 (教育委員会評価)	継続	92
24 図書館運営事業 (教育委員会評価)	継続	94
25 石狩市民文化祭開催事業 (教育委員会評価)	継続	96
26 石狩市文化協会運営支援事業 (教育委員会評価)	継続	98
27 地域創造アトリエ事業 (教育委員会評価)	継続	100
28 いしかり砂丘の風資料館管理運営事業 (教育委員会評価)	継続	102
29 厚田資料室管理運営事業 (教育委員会評価)	継続	104
30 はまます郷土資料館管理運営事業 (教育委員会評価)	継続	106

※評価結果は48ページから107ページのとおりです。表の「ページ」に該当する事業評価シートを参照ください。

(2) 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

教育プラン基本構想 重点テーマ1 自ら学ぶ意欲を育てる教育

施策（大項目）1 生きる力につながる確かな学力を育む教育の充実

●大項目のねらい

子どもたちに自ら学び自ら考え行動する力などの「確かな学力」を育むため、創意ある教育課程の編成・実施、学習指導の工夫・改善等を通じて、子どもたちの学ぶ意欲を高め、「わかる授業」を目指した積極的な授業・指導内容の改善や「楽しい学校」づくりに向けた、学校の主体的な教育活動を推進しました。

●平成 22 年度の取組状況

確かな学力を育む教育活動の推進

- 各学校は、全国学力・学習状況調査やC R T標準学力検査の結果を踏まえ、学校改善プランの見直しを行うとともに、朝読書や授業時間以外の補充的指導を実施したほか、家庭学習習慣や望ましい生活習慣定着のため家庭へ働きかけた。
- 教育委員会は、全国学力・学習状況調査やC R T標準学力検査結果の分析や各学校の取組に関する指導・助言・相談を実施した。特に市小中学校学力向上対策拡大チームを設置し、授業内容の改善、教職員の意識改革、学校自らの積極的な学校改善について議論するとともに、道外視察研修（秋田市立旭南小学校・泉中学校 2月24日～25日）を実施した。
- 学校への人的支援として、S A T（大学生などによる学習指導補助）配置のほか、学力向上サポーター（元教職員による補助指導）を、花川小学校、紅南小学校、厚田小学校、樽川中学校に配置し、国語、算数・数学のT Tや教材づくりの補助を図った。
- よりきめ細やかな学習支援のモデル事業として、退職教員を非常勤補助教員として配置する「エキスパート・サポーター事業」を双葉小学校で実施し、2名のエキスパート・サポーターがシフトを組み、全学級の算数の授業を中心に、T T指導、習熟度別指導、補充指導を行った。
- 教職員加配や道外部指導者活用事業などを活用し、T Tや放課後指導として人材派遣を行った。

○外部指導者及び加配教員配置数

区 分	22 年度	21 年度
S A T	30 名（10 校）	50 名（15 校）
学力向上サポーター （21 年度はスーパー S A T）	4 名（4 校） 延べ 1,824 時間	4 名（4 校） 延べ約 1,400 時間
エキスパート・サポーター	2 名（1 校）	—
加配教員	32 名（14 校）	25 名（14 校）
その他道費外部指導者	10 名（10 校）	4 名（3 校）

- 総務省が実施する「フューチャースクール推進事業」の対象校（全国 2 ブロック 10 校）に紅南小学校が選定され、タブレット P C、電子黒板等の機器整備、校内無線 L A Nの整備がされるとともに、I C T協働教育の実践が図られている。また、市独自事業として浜益小学校にタブレット P C、電子黒板等の機器整備、校内無線 L A Nの整備を行った。
- 小学校 5 年 6 年の外国語活動本格実施（平成 23 年度）に向け、平成 21 年度及び 22 年度に、各学級年間 10 時間の授業支援を行う「英語サポート事業」を実施し、旧石狩市内小学校 10 校は N P O 教育支援協会北海道との業務委託、厚田区及び浜益区小学校は A L T（英語指導助手）を活用した。

- ・ 新しい学校図書館の先行モデルとして、双葉小学校に学校図書館司書を配置し、市民図書館とのオンラインネットワークの活用などにより、蔵書管理、読書指導、調べ学習や教員支援などを行うとともに、子どもたちの読書意欲を高める取組として、企画展示コーナーや使いやすい書架の整理などを進め、その成果などから学校図書館等整備方針を策定した。

(参考) 双葉小学校図書館に関するアンケート

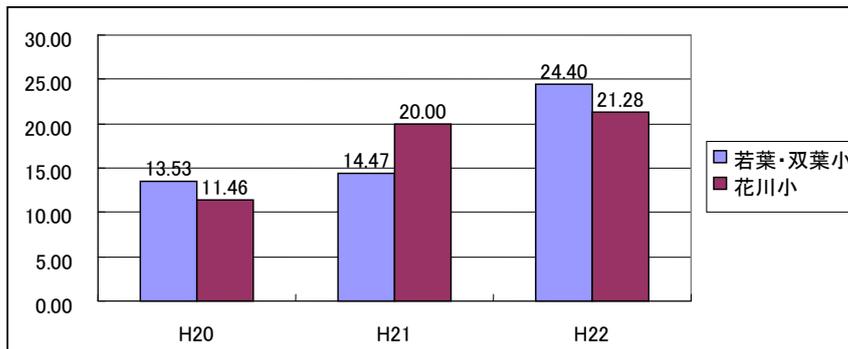
アンケート (児童)

本探しの相談相手が学校司書	59.7%
読みたい本が見つかる	85.7%
学級文庫を読んだことがある	95.9%
1ヶ月に2冊以上本や雑誌を読む	78.1%
学校司書に相談した解決率	100%
学校司書にリクエストした本の入手率	100%

アンケート (教員)

毎月1回以上図書館で授業を行う	91.6%
学校司書に毎月1回以上相談する	100%
教材制作時の図書館資料の活用	50.0%
児童の読書意欲が向上した	91.7%

児童1人当たりの貸出し冊数



- ・ モデル校以外については、計画的な図書の購入と巡回文庫（ブックンボックス）により子どもたちが本に触れる機会の増加を図るとともに、市民図書館では、学校図書館活性化事業（石狩小・望来小）などを通して使いやすい学校図書館づくりを支援した。

巡回文庫（ブックンボックス）の状況

	22年度	21年度
購入冊数	500冊	-
実施学校数	小 12 中 1	小 12 中 2
実施学級数	小 117 中 12	小 89 中 6

【関連する主要事業】 事業評価シートを参照

学力向上推進事業・外部指導者活用事業・英語指導助手招致事業・教育情報化整備事業
子どもの読書推進事業・読書・学習支援事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22		H26	
CRT標準学力検査において、「全観点評定1」の児童の割合（小学校5年国語）	%	—	11		↓	
同上、生徒の割合（中学校2年国語）	%	—	2		↓	
CRT標準学力検査において、「全観点評定1」の児童の割合（小学校5年算数）	%	—	22		↓	
同上、生徒の割合（中学校2年数学）	%	—	14		↓	

※全観点評定区分1とは、「努力を要する」を指す。区分2は「概ね満足」区分3は「十分満足」。

※平成21年度の実績値は、小学校4年国語は10%、中学校1年国語は2%、小学校4年算数は13%、中学校1年数学は16%であり、小学生では割合を低下できなかった。

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H19)	実績値		目標値	
			※H21		H26	
国の図書整備指針による学校図書館図書標準が達成されている小学校数	校	5	3		↑	
国の図書整備指針による学校図書館図書標準が達成されている中学校数	校	1	3		↑	

※調査が隔年で実施されていることから、平成22年度の実績値は把握していない。参考に平成21年度の数値を記載した。

【分析・評価及び今後の方向性】

- 確かな学力の定着に向けた各学校の取組や教育委員会の支援は、継続的な実施が必要である。平成23年度以降も学力向上アクションプランや学校改善プランを通して取組を推進する。特に、分かりやすい授業づくりや、授業と補充的指導・家庭学習を連続させることにより、学習効果を高めるよう、各学校に働きかける。また、北海道で作成しているチャレンジテストの活用などに積極的に取り組むとともに、少人数指導、特に習熟度別指導の推進を図る。

また、基礎基本を活用する力を育む必要があることから、新聞や学校図書などを活用して、調べ学習と発表などを組み合わせた授業などの取組を推進する。
- 家庭学習習慣の定着が課題であり、基本的な生活習慣とあわせ、更なる方策の検討が必要である。平成23年度以降には、生活習慣の定着に向けた啓発の取組を市PTA連合会と連携を強化しながら進める。（生活習慣啓発かるた「いしかりっ子いきいきカルタ」の作成配付など。）

また、地域の教育力を活用した家庭学習習慣定着への支援策として学校支援地域本部事業や放課後子ども教室などを発展させた、あい風寺子屋事業を実施する。
- 学力向上対策拡大チームの検討や道外視察研修報告により、ノート指導の重要性やICT活用の有効性が指摘されている。ノート指導を効果的に行う実践例の紹介や、ICT活用の導入段階として効果的な機器として授業に即活用できる書画カメラの整備を推進する。
- 紅南小学校フューチャースクールの推移を見守りながら、浜益小学校のICT活用事業について検証する。また、「(仮称)教育情報化推進プロジェクト検討会」を設置し、今後の方向性について検討する。

- ・ 外部指導者については、より安定的な活用のため、人材獲得面の課題を踏まえた上で、教員免許を持つ人材などを中心に学校の改善プラン実践に連動した人材の派遣を進める。
- ・ 新学習指導要領本格実施に対応するため、平成 23 年度は小学校専属のALT（英語指導助手）を新たに招致するなど、小学校外国語活動実施に向けた支援体制の充実を図る。更には、国際社会で必要とされる能力を持つ人材育成という視点で幼児期から高等教育までを視野に入れた育成方策なども検討する。

（参考）学校へのアンケート 英語サポート事業はお役に立ちましたか？

- ・ 外国語活動の本格実施に向け、児童の興味・関心を高めたり、教職員の研修を深めたりするのに効果があった。
- ・ 非常に役立った。教育支援協会の方には All English での授業の進め方や活動の仕方、ALT の方にはネイティブの英語に触れる機会と外国の文化への興味をもたせてくれ、どちらも外国語活動を新鮮でわくわくする活動にすることができたと思う。
- ・ 講師の方と TT で授業を行うことで指導法も学ぶことができた。
- ・ NPO の支援により外国語活動の具体的なイメージを教員が持つことができ、たいへん有効だった。

- ・ 学校図書については、毎年度計画的な購入をしているが、各学校の蔵書は、まだ古いものが多く、これらが廃棄されたことにより、小学校では図書標準達成校が減少した。今後は、更なる蔵書の充実とともに巡回文庫による補完を図る。
また、双葉小学校での成果などを踏まえ、平成 22 年度に定めた学校図書館等整備方針に基づき、蔵書の充実、学校司書の積極的な配置など、学校図書館の計画的整備を進める。特に平成 23 年度においては、南線小学校図書館の整備（司書配置、オンラインシステム整備）を進める。

施策（大項目）2 一人ひとりを大切にした教育活動の充実

●大項目のねらい

障がいのあるなしにかかわらず、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな教育を行うため、石狩市教育支援センターを設置するとともに、特別支援教育の取組の環境整備を推進しました。

●平成 22 年度の取組状況

特別支援教育の推進

- ・ 平成 22 年度に「石狩市教育支援センター」を設置し、特別支援教育の振興、不登校・いじめ対応などに関わるスタッフの連携を図り、児童生徒・保護者及び教職員への相談・支援体制が充実し、よりきめ細かい対応を実施した。
- ・ 特別支援教育の推進にあたっては、市内小中学校における特別支援教育コーディネーターの配置や学校の実態に合わせたTA（ティーチング・アシスタント）、特別支援教育支援員等の配置などの体制を整備し、特別支援学校との連携を図りながら、困り感をもった児童生徒とその保護者の支援を実施した。
- ・ 特別支援教育支援員については、平成 21 年度から 3 名の増員を図った。

○特別支援教育関連スタッフの状況

TA	6名（花川小1、南線小2、花川南小1、紅南小1、教育支援センター1）
特別支援教育支援員	11名（石狩小1、花川小1、花川南小3、紅南小3、緑苑台小3）
市特別支援教育コーディネーター	5名の指名（小中教諭3、言語聴覚士1、保育士1）
※参考 21年度の状況	
TA	7名
特別支援教育支援員	8名
市特別支援教育コーディネーター	5名の指名（小中教諭3、言語聴覚士1、保育士1）

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
特別支援教育運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値
		(H20)	H22	H26	
市主催教職員研修において、特別支援教育関連講座に参加した小中学校数	校	16	20	21	

※平成22年度は教職員サマーセミナーにおいて、特別支援関係講座を2コマ開講した。

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 教育支援センター設置によるスタッフの集中化や連携体制の強化により、きめ細やかな支援を図ったが、スタッフ数は必ずしも十分でないことから、増員や業務分担の工夫を進める。
特に、特別支援教育支援員の配置については、各小学校（1学年）における困り感を持つ児童を有する学級の支援に極めて有効であることから、まだ配置できていない学校もあるため、平成23年度においては更に10名の増員を図る。
また、TA配置を廃止し、地域コーディネーター（SENCO）として4名を学校派遣する。
- ・ 発達障がいなどで「読む」ことが困難な子どもたちのために効果があるといわれているマルチメディア DAISY（デイジー）教科書について、試験的に活用するなど、その検証を進める。

◆デイジー教科書

発達障がいなどがある児童・生徒の中には、教科書の文章を読み飛ばしてしまう、どこを読んでいるのか分からなくなるなど、読むことに困難を覚えている子どもがいる。

デイジー教科書は、パソコンなどを活用して、通常の教科書の文章を音声で再生した上で、対応する文章を色で強調。更に、文字の大きさを変えるなどの工夫を施すことで、そうした子どもたちに、教科書の内容の理解を促す効果があるといわれている教材のひとつ。

- ・ 身近な地域で障がいのある子ども一人ひとりの教育ニーズに応じた専門性の高い指導・支援が受けられる体制が求められていた中で、平成23年度に星置養護学校石狩紅葉山分教室が開設されたことは、児童生徒や保護者をはじめ、関係者の念願が実現したことであり、大きな成果といえる。更には、障がいのある子どもが、地域の中で幼児期から就労までの一貫した支援を受けられるよう、小学部・中学部に加え高等部の設置が強く望まれており、その設置に向けて、北海道教育委員会などに働きかける。

施策（大項目）3 独自性が発揮できる魅力ある学校づくりの推進

●大項目のねらい

現在の学校教育が抱える課題の多くは、学校のみならず地域社会と一体となって解決することが求められています。そのような課題に対して、教職員が一体となり、地域とともに魅力ある学校づくりを進める学校独自の取組の充実を推進しました。

●平成22年度の取組状況

教職員の主体的な研究・研修活動の推進

- ・ 7月28日～29日、8月3日から5日の5日間、「石狩市教職員サマーセミナー」を実施し、計10講座で延べ365人の教職員が参加した。（実人数は279人の参加）
平成22年度は例年実施している特別支援教育に関する講座に加え、スクールソーシャルワークに関する講座、部活指導におけるコーチングスキル（子どもの心という立場から）など児童生徒の心の問題への支援対応方法に関するテーマを充実させた。
また、ICTを活用した校務の情報化、わかる・楽しい授業づくりをテーマにした講座や「学力日本一秋田の秘密に学ぶ」（学力向上策）など、現場で実践しやすいものを重点的に選定した。更にミニトマト収穫体験（食育）や地元の文化自然を学ぶフィールドワークなど参加しやすく、総合学習にも生かせるテーマ設定なども考慮して実施した。

※教職員研修については、平成21年度教育委員会の点検・評価において、外部評価委員より、参加率向上のための工夫（実施時期やテーマ設定など）が必要であるという意見をいただいたところです。

※ICT活用について、平成21年度教育委員会の点検・評価において、外部評価委員より、教職員同志が優れた実践を研修しあうことも含め、研修の充実が必要であるという意見をいただいたところです。

- ・ 石狩市教育振興会が行う、研究集会の開催・各校通知票及び評価方法検討（評価・教育課程研究委員会）・新教育課程編成に向けての交流（評価・教育課程研究委員会）・進路指導の研究（進路指導研究委員会）・小学校社会科副読本の研究（小学校社会科副読本研究委員会）・創意工夫展の開催（創意工夫研究連盟）・生徒指導の研究（生徒指導研究委員会）・教育機器の研究（教育機器研究部会）・へき地教育の研究（へき地教育研究部会）・中文連行の開催・市内小学校文集製作・小中学校図工作品展開催などの活動に対して、その経費の一部を助成した。

教育課題に積極的に挑戦する学校づくりの推進

- ・ 学校改善プランの作成・改訂・実践で学校運営の改善を推進するとともに、学校自己評価・関係者評価などにおいても学校運営を検証した。教育委員会によるヒアリングでも実施状況を確認するとともに、積極的な学校運営の改善を促した。
- ・ 各学校で特色ある教育活動に加え、総合的な学習の時間などで環境教育・人権教育・平和教育・国際理解教育を実践するよう「学校奨励プログラム」と位置づけ、その活動費を交付するなど、取組を推進した。（環境教育 16校、人権教育 9校、平和教育 6校、国際理解教育 13校）
- ・ 幼・保・小・中連携教育について、平成18年度から中学校区ごとに連携した取組を進めているが、平成22年度については、重点テーマとして「就学・進学への不安を取り除き、学校生活に早く慣れさせることなどに有効な取組」（小1プロブレム・中1ギャップ対策）及び「学びの連続や一貫性を高め、教育効果や学力向上を促進させるなどに有効な取組」（学力向上対策）を推進した。モデル地区の設定なども進め、小中間でのC R T標準学力検査結果情報の共有、参観日交流、小学生への部活動公開、中学校教員の小学校への出前授業などの取組が行われた。

- ・ 学校間の情報交換の場として、学校教育推進会議（4月）及び連携教育交流会（12月）を開催した。

地域とともに歩む学校づくりの推進

- ・ 学校評価結果や教育活動の状況を保護者などに広く情報提供するために学校ホームページの開設を推進した。（ホームページ作成ソフトを購入配付）平成22年度中に全校で学校ホームページが開設された。
- ・ 地域住民の学校教育活動への参加の取組として、地域SAT（10名）、中学校部活動外部指導者（6名）、学校支援地域ボランティア（延べ139名）の活動が行われた。

【関連する主要事業】 事業評価シートを参照

石狩市教職員研修事業・奨励プログラム推進事業・外部指導者活用事業・学校支援地域本部モデル事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	
			H22	H26
小中学校全教職員のうち、市主催の教職員研修に参加した割合	%	71	71	80

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	
			H22	H26
「奨励プログラム」に取り組んだ小中学校数	校	12	19	21

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	
			H22	H26
教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供している小学校の割合	%	50.0	100	100
教育活動の情報について、ホームページを開設して情報提供している中学校の割合	%	37.5	100	100

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 平成22年度の石狩市教職員研修の参加率は、例年とほぼ同程度だった。実施時期については、補充的な指導や中学校の部活動指導なども考慮して設定しており、他の時期の開催は困難な状況にある。参加率向上のためには、より一層教職員のニーズにあった内容にする必要がある。平成23年度には特別支援教育、秋田県の視察発表、言語活動としての学校図書館活用、東日本大震災の教訓など、テーマ性や教員ニーズに対応した講座を開催する。
- ・ 奨励プログラムについては、平成22年度において8割以上の学校で実施されたが、限られた総合学習の時間の中で学校の特色ある教育活動とのバランスをとりつつ、平成23年度においても交付金の配分などを考慮しながら全校で積極的な取組が図られるよう推進する。

- ・ 幼・保・小・中連携教育の推進については、中学校区ごとの独自の取組に加え、教育委員会が提示した重点テーマを意識した活動が行われたが、より具体的な取組が実施されるよう、平成 23 年度においては、3つの重点テーマを示すとともに、各テーマにおける具体的な取組を必須項目として示していく。(推進する取組は、「中学校教員による出前授業」「C R T 結果等の学力情報交流」「入学前の丁寧な引き継ぎ」の3つ。)
- ・ 学校間の情報交換の場については、各種会議のみではなく、学校ホームページによる情報発信なども積極的に推進する。
- ・ 平成 22 年度に全ての学校において学校ホームページが設置されている。次の段階として、ホームページの有効活用のため、必要な情報を迅速かつ的確に提供するよう教育委員会としてもあらゆる場面を通じて指導推進していく。
- ・ 地元にある藤女子大学の学生や地域の方々による SAT や読み聞かせ活動、中学校部活動指導などについては地域の教育力を活用した有効的な手段であるので平成 23 年度以降も継続的に実施していく。学校支援地域本部事業については、これまで花川北中学校区で行われてきた学校支援ボランティア活動に加え、花川南小学校を拠点にあい風寺子屋事業など新たな事業展開を進める。また、浜益小学校の放課後こども教室を活用した、放課後の学習支援なども進めていく。

施策（大項目）4 学校教育を推進する環境の充実

●大項目のねらい

児童生徒が多く時間を過ごす学校の環境は、子どもの健全な成長にとって大きな影響を与えます。少子高齢化等の影響により、学校を取り巻く環境が大きく変化してきていると同時に、学校の安全安心の重要性がクローズアップされており、これらに対応する必要があります。そのような中、子どもたちが安心して楽しく学べるような良好な環境の中で学習することができるよう、学校教育にかかわる環境整備を進めました。

●平成 22 年度の取組状況

学校施設・設備の整備・充実

- ・ 学校施設改修については、八幡小学校の水洗化、小学校の遊具改修、花川北中学校の多目的トイレ改修、石狩中・花川南中学校の屋体バスケットゴール電動化などを行い、教育環境の整備を図った。
- ・ 花川中・花川北中・双葉小学校の暖房設備改修、緑苑台小学校の増築、花川北中学校の大規模改修に係る実施設計を行った。
- ・ 中学校保健体育の武道やソフトボールの用具など教員教材の整備を図った。
- ・ 緑苑台小・花川中学校の教育用パソコンの更新を行うとともに、平成 21 年度に引き続き、教職員用パソコン（不足分）を配置した。
- ・ スクールバス（大型 66 人乗り）1 台を更新した。

安全な学校づくりを目指した環境の整備

- ・ 厚田小・浜益小・花川北中学校耐震化に係る実施設計を行った。(平成 23 年度に補強工事)

- ・ 教職員用パソコンの整備などを受け、学校情報セキュリティ委員会などを中心に、各学校における学校情報機器セキュリティマニュアルの運用を推進した。
- ・ 全校において作成している緊急対応マニュアル（危機管理マニュアル）に基づき、緊急時に備え避難訓練などを実施したほか、防犯教室、防犯訓練の実施や通学路の危険箇所を示したマップの作成を行った。また、多くの学校において、PTAや地域住民のボランティアなどによる巡回パトロールを実施した。

就学に関する経済的な支援の充実

- ・ 各種制度に基づき、要保護・準要保護就学援助（1,491人）・奨学金（47人）・特別支援教育就学奨励金（36人）を支給し、児童生徒が安心して学習活動を行う環境づくりを進めるため、児童生徒の保護者に対する経済的支援を行った。

安全・安心な学校給食の充実

- ・ 給食用の温食缶等の購入など食器具の充実を図った。
- ・ 厚田給食センターのエアカーテンを更新するなど、衛生的な調理環境の整備を図ったほか、安全・安心で効果・効率的な運営を図るため、センター屋根、暖房設備など、老朽化したセンターの施設整備改善や冷蔵庫・冷凍庫の更新などについて検討した。
- ・ 8月に小学校6年生を対象に学校給食嗜好調査を行い、リクエストの多いメニューを献立に取り入れたほか、9・10月に石狩でとれる農水産物を多く使用した給食メニューを取り入れる「石狩デー」を実施するなど、給食メニューを充実するとともに、地産地消・食育を推進した。
- ・ 学校給食センター運営委員会での検討・答申を受け、給食費を13年ぶりに改定した。これにより、栄養価が充足されたとともに、多様なメニューにより子どもたちの興味関心や満足度を高めるような給食提供が図られた。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

小中学校施設整備事業・小中学校校舎等改修事業・教育情報化整備事業・学校給食事業・就学援助事業・奨学金支給事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値	目標値
		(H19)	H22	H26
小中学校の教育用コンピュータ1台当りの児童生徒数	人	7.7	7.8	3.6

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値	目標値
		(H19)	H22	H26
小中学校の職員用コンピュータ1台当たりの職員数	人	19.8	1.1	1.0

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H21)	実績値	目標値
			H22	H26
耐震補強が未完了な小中学校数（平成22年3月末現在において、耐震診断の結果、耐震補強が必要と判断された学校数）	校	6	6	0

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
緊急対応マニュアルの作成と防災・不審者対応訓練を実施している小学校の割合	%	42.9	76.9	100
緊急対応マニュアルの作成と防災・不審者対応訓練を実施している中学校の割合	%	0.0	62.5	100

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
学校情報機器セキュリティマニュアルを運用している小中学校の割合	%	0	100	100

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
子育てに関し経済的に不安に思う割合	%	72.4	72.0	↘

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H19)	実績値	目標値
			H22	H26
学校給食における石狩産食材の使用状況（米・野菜の全使用量に対する地場産数量の割合）	%	38.7	40.4	45.0

【分析・評価及び今後の方向性】

- 学校施設に関しては、遊具について平成22年度に一齐整備を行ったとともに、平成23年度に花川北地区の熱供給事業終了に伴う暖房施設の改修を行い、これらの課題について解消を図ることができた。施設の耐震化については、文部科学省の定める「公立の義務教育諸学校等施設の整備に関する施設整備基本方針」が目指す平成27年度末までのできるだけ早い時期に耐震化を完了できるよう、迅速かつ計画的に実施を進める。大規模改修については、老朽化が進んでいる施設が少なからずある中、優先度を勘案しながら、計画的かつ迅速な実施を図る。
- 新学習指導要領移行（平成24年度）に向けた武道・ソフトボールの備品整備については、平成22年度において全てを完了していないことから平成23年度も引き続き整備を図る。
- スクールバスの老朽化が著しいため、車両更新が課題となっている。通学が困難な地域の遠距離通学児童・生徒の支援として円滑かつ安全な運行体制を確保するため、計画的な更新が必要で、平成22年度に引き続き、平成23年度についても大型1台を更新する。

- ・各学校において緊急対応マニュアルが作成されているが、数年間改訂を行っていない学校もあることや、マニュアル化されている項目に差異があることから、北海道教育委員会が示す「学校における危機管理の手引（改訂版）」や「学校安全推進資料」などを参考に適宜見直しをするなど、一斉点検を図る。特に、東日本大震を受け、津波発生も含め、災害発生時の避難経路や緊急時の対応の確認などを徹底する。
- ・就学援助については、クラブ活動費、生徒会費、PTA会費などへの援助について、財政負担も考慮に入れながら検討する。
- ・学校給食については、地場産食材の割合について平成 22 年度の天候の影響もあり、農作物の生産量が減少した中ではあったが、4 割以上が確保できた。今後は「石狩デー」などを中心として、より一層食育や地産地消を図るとともに、安全・安心で子どもたちの興味に訴えかける給食づくりを進める。このために、施設の改修、設備の更新などを含め、施設の衛生管理上の改善を行い、安全な給食の提供を図る。

教育プラン基本構想 重点テーマ2 思いやりと豊かな心・健やかな体を育む教育

施策（大項目）5 豊かな人間性と感性を育む教育の推進

●大項目のねらい

「確かな学力」や「健やかな体」とあわせ、「豊かな心」を育むにあたり、その出発点となる家庭の役割の重要性を市民全体でしっかり理解し、市民ぐるみの取組が進められるよう、体制の整備を進めました。

学校においても「心の教育」、「情操教育」、「豊かな感性」、「コミュニケーション能力」を育む教育活動を推進するとともに、いじめ等の問題行動・不登校などに対し、一人ひとりを大切にした支援を行う体制の充実を図りました。

また、子どもが言葉を身につけ、感性を磨き、表現力を高めるために欠くことのできない読書活動を推進するため、すべての子どもがあらゆる機会と場において、本に興味、関心を持ち、読書活動を行うことができるよう、環境の整備を図りました。

●平成 22 年度の取組状況

豊かな人間性を育む教育活動の推進

- ・ 【18ページの再掲】各学校で特色ある教育活動に加え、総合的な学習の時間などで環境教育・人権教育・平和教育・国際理解教育を実践するよう「学校奨励プログラム」と位置づけ、その活動費を交付するなど、取組を推進した。
(環境教育 16校、人権教育 9校、平和教育 6校、国際理解教育 13校)
- ・ 市内小中学生を対象に音楽朗読劇や幅広い音楽ジャンルの鑑賞、演奏体験などの機会を提供する情操教育プログラムを実施した。

○情操教育プログラムの実施状況

区分	対象	実施日	内容
スタートプログラム	全小学校 (1年)	7/6、7/7 7/13、7/14 7/21	情操を育む事業として高い芸術性と臨場感あふれた本市オリジナルの参加体験型プログラム「おしゃべランド」をアートウォームで開催した。 音楽朗読劇のほかに、ものの見方の視点を変えていくことの大切さを伝える「くるりんぱ」や世界の教育環境に恵まれない子どもたちの存在を学ぶユネスコ世界寺子屋運動のお話など、おしゃべランド」ならではの世界を子どもたちに提供した。
セカンドプログラム	石狩中学校	11/17	試行実施している“The music”では、中学生が即興（アドリブ）、掛け合いなどの特長を持つ「ジャズ音楽」を鑑賞するとともに、演奏者とのコラボレーションによる、「パーカッションの演奏体験（セッション）」では、コミュニケーション能力の大切さや、会場全体の一体感を共有し、「その場で、その瞬間に生まれるジャズ音楽」の素晴らしさ、感動を体験する機会を提供した。
あい風コンサート	小規模小学校 (7校)	7/8、7/9 8/23、8/24 8/31、10/6 11/9	子どもたちが様々な楽器・ジャンルによる生の演奏を鑑賞するとともに、楽器の構造や由来、歴史等を学ぶ機会を提供した。保護者・地域住民も参加できる方式で実施した。

- ・ 道徳教育については、各学校の道徳教育推進教師などが中心となり、8割以上の学校で「心のノート」が活用されたとともに、道徳授業を保護者に公開するなど、その充実を図った。

- 子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実を図る取組として、情操教育プログラムに加え、札幌広域圏組合が行うK i t a r aジュニアコンサート（主に小学6年生対象）に11校が参加したほか、「俳句のまち - いしかり事業」では、子どもの部（市内小中学生対象）で1,271作品の応募があり、子どもたちが文化芸術に触れる機会となった。また、「わたしの町のたからもの絵画展」への参加についても奨励した。

○関係事業の実施状況

事業名	実施時期	参加者数等	
		22年度	21年度
札幌広域圏組合ジュニアコンサート	6月29日（火）	小 11校 432名	小 8校 492名
「俳句のまち - いしかり事業」子どもの部	5月～7月	小 9校 902名	小 9校 641名
		中 6校 369名	中 6校 302名

◆札幌広域圏組合

札幌市・江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・当別町・新篠津村の石狩管内8市町村によって構成される特別地方公共団体で、共同ソフト事業を中心に圏域にまたがる政策推進に取り組んでいる。

- 沖縄県恩納村交流事業では、2月に沖縄の中学生18名が石狩市を訪れ、樽川中学校の生徒との「市・学校紹介」、文化交流、給食交流などを行った。
- 中学校8校の生徒613名が市内の事業所などで2日間程度、職業体験学習をした。

○平成22年度職業体験学習の実施状況

学校名	実施学年	人数	実施日	日数	備考
石狩中	2年	44	7月1日～2日	2	19事業所
	3年	36	7月1日～2日	2	
花川中	3年	116	8月25日～26日	2	28事業所
花川南中	2年	94	10月21日	1	30事業所
	つばさ	2	10月20日～21日	2	
花川北中	2年	102	10月20日	1	27事業所（新規2）
	特支	11	11月24日～25日	2	
樽川中	3年	151	8月23日～24日	2	53事業所（新規13）
厚田中	2年	9	7月15日～16日	2	8事業所（新規1）
	3年	11	7月15日～16日	2	
聚富中	1年	10	8月20日	1	9事業所
	2年	10	8月20日	1	
	3年	6	8月20日	1	
浜益中	2年	11	10月28日～29日	2	11事業所

- 市の豊かな地域資源を活用し、異なる環境における様々な体験活動や学習等を通して、浜益地区・厚田地区の学校と旧石狩地区の学校で相互に交流することを目的に、パートナーズクール事業を実施し、花川小学校と厚田小学校、双葉小学校と望来小学校、石狩小学校と浜益小学校、緑苑台小学校と聚富小学校の児童が様々な交流をした。

○平成22年度パートナーズクールの実施概要

パートナー校 →		実施月日	事業概要	
1	花川小	厚田小	7月15日	ウォークラリー
	厚田小	花川小	11月25日	全校集会、合同授業（国・音・体）
2	双葉小	望来小	8月20日	砂浜ドッジボール、水遊び
	望来小	双葉小	9月28日	合同授業（国・社・算・理・音・体）
3	石狩小	浜益小	7月21日	さくらんぼ狩り
	浜益小	石狩小	10月20日	スポーツ交流、児童会交流
			11月18日	サッカー大会、集会活動
4	緑苑台小	聚富小	9月14日	収穫体験
	聚富小	緑苑台小	11月25日	合同授業（体・図）

子どもの読書活動の推進

- ・ 幼少期の子ども読書活動推進については、10ヶ月健診の会場で絵本パックを配付し、本を通じた親子のふれあいを支援する「ブックスタート事業」、1歳6ヶ月健診の会場で読み聞かせを行う「ブックスタートフォローアップ」を実施したほか、「あかちゃんと絵本のへや」を図書館で開催し、乳児とその親への読み聞かせ等を行うなど、家庭での読書活動を働きかける取組を実施した。

○子どもの読書活動推進に係る市民図書館の事業

事業名	回数	内容
ブックスタート	月1回	乳児健診（10ヶ月児対象）会場において、保健師、ボランティア、図書館司書連携のもと、乳児の健診と併せて、ボランティアが絵本の読み聞かせを行い、図書館司書が赤ちゃんと保護者の方一人ひとりに、「乳児へのことばかけ」の重要性を説明しながらブックスタートパックを手渡した。 (H22年度のパック配付数 386セット [H21年度 430セット])
ブックスタートフォローアップ	年4回	上記のフォローアップとして1歳6ヶ月健診の会場で読み聞かせを行った。 (H22年度のパック配付数 2セット [H21年度 9セット])
あかちゃんと絵本のへや	月1回	市民図書館（おはなしのたまご）を会場に親子での参加を想定し、職員が乳幼児向けの絵本を紹介した。 (H22年度の参加者数 116人 [H21年度 90人])

- ・ 石狩小学校、望来小学校に図書館司書を派遣し、蔵書整理や読み聞かせを実施するなど、学校図書館活性化事業により、魅力的な図書館づくりを支援した。
- ・ 巡回文庫（ブックンボックス）を13校に実施し、学級貸出の拡充を図った。
- ・ 「家読（うちどく）」を推進するため、石狩小学校（3・4年生）と望来小学校（全校）を対象に、うちどくパック（児童書4冊とおすすめ本リスト、感想カード、アンケート）を配布し、読書を通じた家庭でのコミュニケーションを醸成した。

◆「家読」(うちどく)
 家族みんなで本を読む新しい読書スタイルをいう。家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話すことを基本としており、同じ本をみんなで読むことにより、会話もいっそう弾むとともに、お互いに本を薦めあう、家族そろって本屋さんで本を選ぶなど、読む本について相談しあうことでもコミュニケーションが深まるなどの効果もあると言われている。

- ・ 花川南小学校、石狩中学校でブックトークを実施したほか、花川中学校で朗読を実施し、市民図書館による学校での読書活動の支援を行った。

- ・ 子どもの読書週間において、国民読書年も踏まえ、全小中学校で朝読、読み聞かせ、啓発活動など読書活動を推進した。
- ・ 市民図書館では、ヤングコレクションの充実を図るとともに、中高生向け図書館講座「中高生はこれを読め」を開催した。また、こどもの読書週間にあわせ特別事業として、一日中おはなし会、体験ランド、特集展示等を行い、小・中・高校期の読書活動を推進した。

問題を抱える児童生徒とその保護者への支援体制の充実

- ・ 教育支援教室「ふらっとくらぶ」を年間240日程度開設し、不登校児童生徒の通級を促した。市内不登校児童生徒の2割程度にあたる10名が通級しており、通級児童生徒の学校復帰、社会的自立に向けた支援を行った。平成22年度においては、これまでの学習支援や生徒同士の交流活動のほか、協調性の向上を目的とした音楽活動や生徒間や親子のふれあいを目的とした交流活動も行った。
- ・ 問題を抱える児童生徒とその保護者への支援の取組については、家庭訪問、学校訪問、相談対応などを教育支援センターのスタッフが行った。特に平成22年度からは、教育支援センターを設置したことにより、スタッフミーティング、全体カンファレンスなどが充実できた。
- ・ 市内全中学校へのスクールカウンセラーの配置（道費4名、市費1名、週1・2回、1校あたり35日程度）を行い、児童生徒・保護者の相談対応、不登校児童生徒への家庭訪問を実施した。
- ・ 平成19年度から設置している「いじめ通報ホットライン」は、平成22年度より教育支援センターに移し、専門的な知識を持つスタッフや相談員が平日の9時から17時まで電話対応をした。
- ・ 相談員、支援センター配置職員により、（週3回、1日2時間程度）インターネットパトロールを実施した。
- ・ 花川北中学校・厚田小学校でのQ-U検査を実施することで、いじめなどの人間関係に関する問題の早期発見を図った。

◆Q-U（検査）

Questionnaire-Utilities(楽しい学校生活を送るためのアンケート)の略。学級集団の状態や、子ども一人ひとりの意欲・満足感などを測定できるとされる。学級経営のための有効な資料が得られるとともに、いじめなどの問題行動の予防と対策に活用できると言われている。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

奨励プログラム推進事業・芸術鑑賞会開催事業・沖縄県恩納村交流事業・子どもの読書活動推進事業・読書・学習支援事業・スクールカウンセラー設置事業・不登校児童生徒支援事業・青少年育成支援事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値	目標値
		(H20)	H22	H26
情操教育プログラム参加者のうち、プログラムに感動した児童生徒の割合	%	—	95.9	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
1年間に体験活動に参加した児童生徒の延べ人数	人	—	6,788			↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
「朝の読書」等の一斉読書の時間を設けている小学校数	校	13	13		13	
「朝の読書」等の一斉読書の時間を設けている中学校数	校	5	6		8	

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
「読書が好き」と回答した児童の割合	%	70.2	72.7			↗
「読書が好き」と回答した生徒の割合	%	69.6	66.9			↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
巡回文庫による貸出点数	点	5,200	7,605		7,800	

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
不登校児童数の割合	%	0.24	0.38			↘
不登校生徒数の割合	%	3.76	2.78			↘

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
小学校いじめの件数（認知件数）	件	113	34			↘
中学校いじめの件数（認知件数）	件	92	43			↘

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 【19ページの再掲】奨励プログラムについては、平成22年度において8割以上の学校で実施されたが、限られた総合学習の時間の中で学校の特色ある教育活動とのバランスをとりつつ、平成23年度においても交付金の配分などを考慮しながら全校で積極的な取組が図られるよう推進する。
- ・ 情操教育プログラムについては、「おしゃべランド」に参加にした児童の95%以上が面白かったとアンケートで答えており、子どもたちの情操（芸術などに触れ感動する心）や豊かな感性、コミュニケーション能力を育み、協調性の大切さを学び、音楽が持つ可能性や素晴らしさを再認識してもらおう事業として、今後も継続していく。なお、実施時期については、会場室温やスクールバス運行などを考慮し6月に開催する。（平成22年度は7月中～下旬）
- ・ セカンドプログラム“The music”についても、参加者全体の88.9%が「感動した」と回答しており、「おしゃべランド」と同様の効果があるものと判断でき、平成23年度も実施する。なお、実施校における日程確保面も考慮しながら実施時期や会場など検討していく。更に、中学生に対して平成23年度は、世界的に貴重な美術・芸術作品に触れる機会を提供するため、石狩美術館の鑑賞“美術館へ行こう”を実施する。
- ・ 道徳教育については、各学校の道徳教育推進教師などが中心となり、平成22年度に一定の取組がなされたことから、今後も様々な場面を通じて更なる取組を働きかける。
- ・ 「俳句のまち - いしかり事業」については、地域の方に俳句の指導をしてもらうような取組なども活用しながら、子どもたちが芸術に触れる機会のひとつとして引き続き実施する。
- ・ 沖縄県恩納村交流事業については、中学生に豊かな体験の機会を提供するという意味で有効な事業であることから、参加者の経費負担面などを工夫しながら今後も継続して実施していく。
- ・ パートナースクールについては、小規模校の児童が大規模校での生活を体験し、都市部の児童が豊かな自然をいかした学習を体験できるとともに、市内の学校間の交流を図れる有効な事業であり、今後も推進する。なお、平成23年度は浜益小学校と紅南小学校でのICTも活用した交流を行う。
- ・ ブックンボックス（巡回文庫）については、貸し出し用の本の購入や1セット当たりの冊数を増やすとともに、浜益区においては分館との連携を図り配本回数を増やした。結果として、前年度貸出数と比較し2,405冊の増加がみられた。今後も学校図書館の蔵書充実に効果的な手法として継続する。
- ・ 学校図書館活性化事業は、毎年学校を指定し実施しており、引き続き実施する。（平成23年度は、南線小学校と緑苑台小学校などで実施する予定。）また、家読については、アンケート結果を見ると、家庭からも好評であったことから、平成23年度については、対象校を拡大しながら引き続き推進していく。
- ・ 平成23年度から、子どもの読書活動の輪を広げるため、市民図書館・こども未来館あいぼーとが連携し、学校・地域・家庭で読書の楽しさや大切さを伝え、広める「読書リーダー」を養成する「ジュニア・ライブラリアン養成プログラム」を市内児童生徒を対象に実施する。
- ・ 不登校児童生徒数は毎年減少しており、学校によるきめ細やかな対応及びコーディネーターやカウンセラー等との連携した支援などにより一定程度未然防止や早期解決がなされたと思われる。しかし、全児童生徒に占める割合で見ると、小学校での不登校の割合が増えており、（きっかけとしては、「無気力」が多い。）心の問題や家庭の問題により欠席する児童が増えている傾向が見えることから、小中連携によるカウンセラー派遣や子ども相談センターなどとの連携等により子どもが抱える不安の解消を目指す。
- ・ 人間関係や心的理由により学校へ行くことができない児童生徒の将来的自立支援や居場所としての「ふらっとくらぶ」の活動は今後も継続する。
また、学校や不登校に対する支援機関との関係がつかれず支援を受けることができていない児童生徒や、「ふらっとくらぶ」に通うことができていない児童生徒に対しては、家庭訪問や電話による働きかけなどを積極的に行っていく。

- ・ いじめの認知件数は、小中ともに減少している。市内全小中学校でのアンケート実施や懇談などにより早期解決が図れたことや、いじめはいけないうことであるという日頃からの指導の成果と考えられる。今後も1年を通して、いじめの実態把握を通じた未然防止に取り組んでいく。
- ・ Q-U 検査については、平成22年度に実施した2校において、人間関係に関する問題の早期発見に有効であるとの評価もあったことから、平成23年度において実施校の拡大を図る。

施策（大項目）6 心身の健やかな成長を促す教育の推進

●大項目のねらい

児童生徒自らが生涯を通じて健康な生活を送ることができる力を身につけるため、健康や安全に関する知識と基本的な生活習慣を育む取組とともに、生涯にわたって運動等に親しむ資質や能力を育成するため、体力・運動能力の向上を図る取組を支援しました。

また、核家族化や少子化を背景に、子育てへの不安の高まりが指摘されている中で、すべての教育の出発点である家庭で望ましい生活習慣や学習習慣を定着させられるような環境づくりを進めました。

●平成22年度の取組状況

健康な身体を育む教育活動を推進

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、平成22年度から抽出方式になったが、本市では、市内全体の児童・生徒の状況や学校の取組状況などを把握するため、全校で実施した。
- ・ 平成22年度から体育科授業で市のスポーツであるソフトボールを取り入れている紅南小学校にソフトボール協会が指導者を派遣したほか、中学校の部活動外部指導者活用事業により、6名の地域の人材が指導者として活動した。また、スポーツ支援SATとして、水泳やスキー授業での外部指導者活用を行った。

○スポーツ関連の外部指導者等の状況

区 分	22年度	21年度
スキーSAT	15校 延べ194名	14校 延べ166名
水泳SAT	1名 1校	1名 1校
中学校部活動外部指導者	6名 4校 延べ392日 (野球、剣道、ソフトテニス、バレーボール)	6名 5校 (野球、剣道、ソフトテニス、バレーボール)
ソフトボール協会指導者	3名 1校 9時間(6年2クラス、10月に実施)	-
非常勤部活動指導者(道費)	1名 1校 週あたり4日(12時間)	-

- ・ 長期休業中に遊びを通して運動習慣をつける取組として、石狩ソフトボール協会から指導者を招き、Tボール教室を紅南小学校と南線小学校で実施した。(紅南小98名、南線小92名)
- ・ 小学校が実施するスキー学習のバス借り上げ料を交付し、北国特有の冬のスポーツであるスキーの習得とともに、冬場の外でのスポーツ・運動機会の確保に寄与した。(12校 参加児童数 2, 212名)
- ・ 7月までに小学校全校において、老朽化などで撤去されていた遊具を設置・修繕し、子どもたちの遊びを通じた運動の場の提供に寄与した。(新設は11校、修繕10校で実施)

○おもな学校遊具整備数

遊具名	ジャングルジム	フランク	雲梯	鉄棒	滑り台	ハトウ楯	その他	計
新設基数	5	5	9	7				26
修繕基数	1	6	4	10	1	5	4	31
遊具整備数計	6	11	13	17	1	5	4	57

- ・ 薬物乱用防止教室については、中学校5校で実施した。その他の中学校でも非行防止教室、保健体育などの場で指導を行った。
- ・ 子どもへの暴力防止教育プログラム（CAPプログラム）を全小学校（3年生を中心）で実施し、子どもが自分の心と身体を大切に生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から子ども自身が自分を守るための教育を推進した。
- ・ 食育推進支援事業として、食育DVDを活用し、小中学校における食育活動を推進するとともに、親子料理教室を開催した。
- ・ パンフレットの配布や親子料理教室の実施を通して、学校、家庭、地域と連携した食に関する指導を実施するとともに、栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭未設置校への訪問指導等）により食に関する指導の充実を図った。
- ・ 【21ページの再掲】8月に小学校6年生を対象に学校給食嗜好調査を行い、リクエストの多いメニューを献立に取り入れたほか、9・10月に石狩でとれる農水産物を多く使用した給食メニューを取り入れる「石狩デー」を実施するなど、給食メニューの充実化を図るとともに地産池消・食育を推進した。

市民皆スポーツを目指した生涯スポーツの推進

- ・ 市のスポーツであるソフトボールについて、中学校における保健体育授業での実施（新学習指導要領の先行実施）と体育科での実施を希望する小学校（4校）に対して用具等を購入するとともに、外部指導者派遣など実施環境の整備を図った。
- ・ 市民スポーツまつりでは、これまでの小学生駅伝、中学生駅伝に加え、平成22年度から「小学校低学年タスキリレー」が新設された。これらに児童生徒の積極的な参加がなされ、子どもたちが運動習慣を身に付けるきっかけにもなった。

○市民スポーツまつり参加チーム数

区 分	22年度	21年度
小学校駅伝	55チーム（10校）	52チーム（10校）
中学校駅伝	18チーム（6校）	25チーム（5校）
小学校低学年タスキリレー	21チーム（10校）	-

基本的な生活習慣定着のための家庭環境づくり

- ・ 子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための取組として、市PTA連合会と連携し、①（食育を通じて）早寝・早起き・朝ごはん運動、②親子での読書活動、③ケータイの使い方の家庭のルールづくり（中高生の家庭向け）の3つテーマ設定し、研修等での課題に取り上げるなど重点的に取り組んだ。
- ・ 家庭教育力向上のための働きかけとして、広報いしかりに「朝ごはん」に重点を置いた特集記事を掲載し「早寝・早起き・朝ごはん」を啓発するとともに、ぴよぴよ広場の中で基本的な生活習慣などテーマにした講座を開催した。
- ・ PTAと連携して、花川南小学校で児童・保護者を参加対象にブックトークを実施し、親子での読書活動を推進した。

- ・ 【26ページの再掲】「家読（うちどく）」を推進するため、石狩小学校（3・4年生）と望来小学校（全校）を対象に、うちどくパック（児童書4冊とおすすり本リスト、感想カード、アンケート）を配布し、読書を通じた家庭でのコミュニケーションを醸成した。
- ・ 2月に一般市民・PTA・教員などを対象に「家庭の教育支援講演会（あなたの知らないケータイとネットの怖い話）」を開催（参加者69名）し、情報モラルと家庭でのケータイのルールづくりをテーマにした講演、DVD視聴を通して、家庭への啓発を図った。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
外部指導者活用事業・子どもへの暴力防止プログラム事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を50とした場合の石狩市の小学校5年生男子の値		—	47.5		50以上	
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を50とした場合の石狩市の小学校5年生女子の値		—	46.0		50以上	
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を50とした場合の石狩市の中学校2年生男子の値		—	45.4		50以上	
「体力・運動能力調査」の総合得点の全国平均値を50とした場合の石狩市の中学校2年生女子の値		—	43.8		50以上	

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
「体力・運動能力調査」で、週1日以上体育の授業以外で運動・スポーツをすると答えた小学校5年生の割合(男子)	%	—	87.9		100	
「体力・運動能力調査」で、週1日以上体育の授業以外で運動・スポーツをすると答えた小学校5年生の割合(女子)	%	—	79.4		100	

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値		目標値	
			H22	H26	H22	H26
薬物乱用防止教室・キャラバンカーによる指導を実施した中学校数	校	3	5		8	

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
栄養教諭による食に関する派遣指導（配置校外での指導）延べ回数	回	103	132	160

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
市民意識に関するアンケートで「この1年間で継続的にスポーツを行っていますか」という問いに「はい」と答えた割合	%	29.7	39.8	↗

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
ぴよぴよ広場の参加延べ人数	人	320	328	480

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」又は「どちらかといえば、している」と回答した児童の割合	%	93.3	95.7	100
「朝食を毎日食べていますか」という設問に対して「している」又は「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合	%	92.4	92.1	100

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「3時間以上」と回答した児童の割合	%	5.9	5.9	3.3
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「3時間以上」と回答した生徒の割合	%	11.1	13.2	7.9
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「4時間以上」と回答した児童の割合	%	3.5	2.7	1.6
「普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネットをしますか」という設問に対して「4時間以上」と回答した生徒の割合	%	6.5	5.2	4.0

指標の名称	単位	プラン掲載 実績	実績値	目標値
		(H20)	H22	H26
ケータイ・ネットゲームの望ましい利用方法 についての指導などを実施した中学校数	校	—	6	8

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、石狩の子どもたちは、体格では全国を上回っているものの、実技調査では、多くの項目（特に敏捷性や全身持久力など）で全国を下回っていることがわかった。また、基本的な生活習慣に課題があること、特に女子の運動習慣が前年に比べ低下気味であることがわかった。平成23年度以降についても本調査を全市で実施するとともに、各学校で児童・生徒の状況を把握しながら、体育授業のやり方や、学校生活内における運動習慣の定着を図るための特色ある取組を推進する。
- ・ 新指導要領への移行により、体育の授業でボール運動のベースボール型（Tボールやソフトボール）を取り組む学校のうち、希望する学校については、ソフトボール協会が指導者を派遣するなど支援を行う。また、外部指導者活用事業では、近年スキー指導が苦手な先生が増えていることから、スキーSATによる支援を行う。
- ・ 食育については、栄養教諭の食に関する派遣指導が増加しており、学校における食指導や食育に関する活動ニーズが向上していることが窺えることから、今後、天使大学との共同研究の成果である「食育プログラム」を検証し、授業における活用など効率的な推進を図る。
- ・ 市のスポーツであるソフトボールについては、平成22年度に中学校における保健体育授業での実施（新学習指導要領の先行実施）に向けて用具類の整備を図ったが、全てを完了していないことから平成23年度も引き続き整備を図る。併せて小学校でもTボールやソフトボールの実施を希望する学校の用具整備などを行う。
- ・ 駅伝・タスキリレーなど、市民スポーツまつりへの児童生徒の参加が、更に拡大されるよう働きかけるとともに、参加に向けた支援を行う。
- ・ 望ましい生活習慣の定着に向けて、更に家庭に働きかける必要があることから、平成23年度以降には、市PTA連合会と連携を強化しながら啓発の取組を進める。（生活習慣啓発かるた「いしかりっ子いきいきカルタ」の作成配付など。）
特に、「1日当たり3時間以上インターネットをする」と答えた児童生徒の割合については、増加傾向にあることから、例えば「ケータイの正しい使い方」などと併せ、様々な場面で児童生徒が考える機会を設けるなど、学校での指導強化を図るとともに、家庭に対してもPTAや学校と連携を図りながら、望ましい基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・ ぴよぴよ広場については、子育てに関する知識・技術の習得や参加者間の交流を図ることを目的に実施しており、参加者から一定の評価を得るなどニーズは満たしているが、子育て支援課においても子育て支援事業が行われており、効率化を進めさらに参加者増を図るためには一体化が必要であり、平成23年度以降同課が実施する子育て支援プログラムに機能移管することとし、包括的事業への転換を図る。
- ・ 薬物乱用防止については、学校においても子どもたちが薬物に対する正しい知識を持つことが必要であるとの認識のもと、指導に取り組む学校が少しずつ増えている。今後も全中学校での実施に向け、学校の年間計画に取り入れるよう働きかけていく。

教育プラン基本構想 重点テーマ3 地域で育ち・学び・生きる教育

施策（大項目）7 次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援

●大項目のねらい

核家族化や少子化などの社会変化や地域の結びつきの低下などを背景に、青少年をめぐる問題が深刻化しています。

このような中で、地域の大切な一員である青少年の健やかな成長のため、多様な活動の場や機会の充実を図るとともに、地域で子どもを育てる環境づくりを進めました。

また、我が国が批准した「児童の権利に関する条約」を踏まえ、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するための環境づくりを進めました。

●平成22年度の実施状況

子どもの権利の保障の推進

- 【31ページの再掲】子どもへの暴力防止教育プログラム（CAPプログラム）を全小学校（3年生を中心）で実施し、子どもが自分の心と身体を大切に生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から子ども自身が自分を守るための教育を推進した。

○平成22年度のCAP事業参加状況

学校数	児童数	教職員数	保護者数
13校	817人	155人	110人

- 子どもの権利とCAPプログラムについて児童やその保護者にPRするためのリーフレット「子どもの権利とCAP」「しってる？こどものけんりじょうやく」を作成し、全児童及びその保護者に配布した。

地域で子どもを育てる環境づくりの推進

- 学校と地域とが連携して安全、安心への取組を進めるため、関係機関が情報を共有し、子どもたちのためにどのような支援をすることができるのかを協議し、学校を核とした地域で子どもたちを見守る体制づくりを目指す「石狩市子ども安全・安心連絡推進協議会」を開催した。（6月、12月）
- 事故発生の未然防止や子どもたちの緊急避難場所の確保並びに警察への速やかな通報体制整備を目的として、こども110番いしかりサポート事業を実施した。

◆こども110番いしかりサポート事業

登録者にステッカーを配布し、こども110番の家として登録し、子どもの緊急避難場所として子どもを保護するとともに、警察へ通報するしくみ。

（平成22年度末までの登録件数は841件、平成22年度における通報件数は0件）

- 学校と家庭や地域の団体などが連携し、地域のボランティアを中心に登下校時などにパトロールや見守りなどを行う「スクールガード」、「声かけ運動」の活動などを通して、地域全体で学校安全に取り組む体制を整備し、子どもたちが安心して生活できる地域づくりを図った。
（平成22年度 実施学校数 11校、ボランティア数 600名程度）

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

子どもへの暴力防止プログラム事業・学校支援地域本部モデル事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	計画掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
市民意識に関するアンケートで「児童の権利に関する条約」を知っていると答えた割合	%	12.0	11.7	20.0

指標の名称	単位	計画掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
CAPプログラム実施小学校数	校	5	13	13

指標の名称	単位	計画掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
メール配信サービス登録件数（不審者情報）	件	791	1,342	↗

【分析・評価及び今後の方向性】

- 子どもへの暴力防止教育プログラム（CAPプログラム）については、全小学校において取組が実施され、平成22年度は対象である3年生に加え、経過措置として、学校事情に応じ他の学年での実施も行った。このことにより、全ての児童に対して計画的に自分の心と身体を大切に生きていくための人権意識を育てると同時に、いじめ、虐待、性暴力、誘拐などの様々な暴力から自分を守るための教育をする機会の提供がきるようになった。平成23年度以降も保護者参加も含め、計画的なプログラムの実施を推進する。
- 石狩市子ども安全・安心連絡推進協議会については、市内各小学校で行われている学校や地域の取組を把握し、学校間においては他校の取組を参考とすることができることから、今後も継続して実施していく。
- こども110番いしかりサポート事業については、安全・安心連絡推進協議会において協議がなされ、一定の抑止効果があるため引き続き登録者を拡大していくことが確認された。また、正確な状況を把握するため、登録者の再確認を行った。今後も定期的に確認を行い、より正確な登録者情報を学校や子どもたちに提供していく。
- 「スクールガード」・「声かけ運動」については、登下校時など学校や子どもたちだけで身を守ることに限界もあり、地域の子もたちは地域で育て、守り、子どもたちが安心して生活できる環境を整えることが必要である。不審者の発生件数にあまり変化はないものの、大きな事件が起きていないことから、地域の人たちによる見守りが定着してきた成果とも考えられる。一方、学校区によって活動に温度差があることから、市内全域で学校と地域が一体となって活動を行っていきけるよう働きかけていく。

施策（大項目）8 地域づくりに活かされる生涯学習環境の充実

●大項目のねらい

市民の生活様式の多様化に伴い、学習に対するニーズも多様化・複雑化・高度化が進んでいます。このような中、市民一人ひとりの学びへの意欲を喚起し、学習の方向性を見出し、互いに学び合う生涯学習を充実するため、人生各期に応じた学習機会の充実を図るとともに、自らの主体的な学びを支援しました。

また、学習を通じた地域社会の活性化を目指すため、市民の学習ニーズを的確に捉え、積極的な支援を行うとともに、自らの学習成果や能力を生かし、互いに学び合うことができる環境づくりを進めました。

●平成22年度の実施状況

多様な学習機会の提供・主体的な学習活動の支援

- ・ 市民ボランティア「いしかり学びをつくる会」と教育委員会が協働でつくる新しい学びの場「いしかり市民カレッジ」は、誰でも、いつでも、学ぶことができ、更に自ら企画したり教えたりできる新しい学びのかたちを創生しており、主催事業は16講座、48回と着実に取組が進んだ。
- ・ 仕事や趣味などで得た知識、経験、技術などを活かした講座を自ら企画・運営し、講師として市民の学びの手助けをする「まちの先生企画講座」を10月から4講座、13回を開講し、講師と受講者との学びあいを大切に市民が主役の新しい生涯学習の推進に寄与した。

○いしかり市民カレッジ登録者数

平成22年4月6日現在	平成23年3月31日現在
137名	208名

- ・ ぴよぴよ広場では、1歳半～3歳児の親と子どもを対象に「幼児の身体運動と情操教育」「家庭教育と子育て支援」「幼児の心理としつけ」「幼児の食生活」「ストレス緩和」などをテーマに花川南コミセン、公民館で各8回（各17組、9組参加）開催し、家庭教育や子育ての支援を行った。
- ・ シニアを対象とした地域ごとの講座については、はまなす学園を18回開催したほか、おらが元気塾（厚田区）、いきがづくり学園（浜益区）などを実施した。なお、このほかの講座は、市民カレッジの講座にシフトしている。
- ・ まちづくり出前講座（70メニュー）により、市が推進する施策をテーマとした学習機会の提供を図った。（29件利用）

学習成果の発表・交流の場の充実

- ・ 若葉小カルチャーセンター、紅葉山カルチャーセンター機能の移転を含め、「石狩市学び交流センター」のオープン（平成23年4月）に向けた様々な準備を進めた。

社会教育を進める主体的な団体活動の支援

- ・ 公民館まつりを3月19・20日に開催し、公民館を使用して活動している団体・サークルの日ごろの成果を発表する機会を提供した。（25団体参加）
- ・ 市内単位PTAの連絡調整を図り、市内教育の振興に寄与している石狩市PTA連合会の活動経費の一部を補助するとともに側面支援することにより、教育活動の振興や地域における教育環境の改善充実を図った。

- ・ ユネスコ憲章の精神に基づき、地域に根ざした民間ユネスコ活動をしている団体の運営費の一部を補助するとともに側面支援することにより、石狩市の教育・科学・コミュニケーションの向上、平和に対する意識を高めた。なお、平成22年度は生振小学校が道内の小学校で初の「ユネスコ・スクール認定」を受けた。
- ・ 青年交流、文化祭など、地域行事のサポートなどの活動を行う石狩市青年団体連絡協議会の運営経費の一部を補助するとともに、側面支援することにより、各地域の融合や地域づくり、まちづくりを推進した。
- ・ 青少年の健全育成、地域福祉支援等の取組を行う石狩市女性団体連絡協議会に対し、その運営経費の一部を補助するとともに、側面支援することにより、女性の特性を活かした自主的・積極的取組を推進した。

学習活動を支援する環境整備の充実

- ・ 公民館（3箇所）・ふれあい研修センター・美登位創作の家・カルチャーセンターについて、その機能や利用者サービスが確保されるよう、適切な施設管理を行うとともに、学び交流センター開設に向けた諸準備を進めた。
- ・ 社会教育主事の配置については、平成22年4月1日現在で、社会教育課：主事1、主事補1 施策推進担当：主事1 市民図書館：主事1 厚田生涯学習課：主事1の計5人。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照
生涯学習講座開催事業・公民館管理運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
いしかり市民カレッジの登録者数	人	—	208	200

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
市民アンケートで「自ら進んで芸術・文化、ボランティア、趣味・教養などの学習活動を行っていますか」という問いに「はい」と答えた割合	%	38.6	37.2	50.0

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
石狩市学び交流センター・公民館本館・カルチャーセンターの延べ利用者数	人	51,000	50,021	↗

※紅南カルチャーセンター廃止を機に町内会館やコミセンへ移行するなどにより利用数が減った。

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
社会教育関係団体の登録数	団体	148	150	↗

指標の名称	単位	プラン掲載 実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
社会教育主事の配置人数	人	6	5	↗

【分析・評価及び今後の方向性】

- 市民アンケートからみると、自ら進んで生涯学習活動を行っている割合が伸びていないのは、高齢化の影響や若い世代に共働きが増え、時間的な余裕がないことなどが要因と推察される。今後は、石狩市学び交流センターを拠点に、体験講座等の開催により新たな団体・サークルの設立を目指すなど、自ら進んで生涯学習活動をしやすいきっかけづくりや環境づくりを図る。
- いしかり市民カレッジについては、主催事業を増やすなど、誰でもいつでも学ぶことができるとともに、自ら企画したり教えたりできる学びの形として取り組んだ結果、登録者数が増えており、今後とも推進していく。
- 【34ページの再掲】ぴよぴよ広場については、子育てに関する知識・技術の習得や参加者間の交流を図ることを目的に実施しており、参加者から一定の評価を得るなどニーズは満たしているが、子育て支援課においても子育て支援事業が行われており、効率化を進めさらに参加者増を図るためには一体化が必要であり、平成23年度以降同課が実施する子育て支援プログラムに機能移管することとし、包括的事業への転換を図る。
- はまなす学園、おらが元気塾（厚田区）、いきがいつくり学園（浜益区）については、それぞれの地域におけるシニア世代を対象にした講座を通じた通年の学習・交流の場となっており、参加者も定員を超える状況である。今後は、さらにその需要が高まると考えられるため、魅力的な学習内容を提供するとともに、参加者の自主性も発揮できるような事業内容とすることに力を入れる。
- まちづくり出前講座については、29件の利用で前年よりは増加したが、特定のメニューが集中的に利用されている状況にある。市役所内の連携・調整を強化し、メニューにない講座の申込みがあったときは、可能な限り要望に沿う内容での開催や、新たな社会情勢や各種制度、市民ニーズに対応したメニューの設定に努める。
- 石狩市学び交流センターについては、平成23年4月のオープンに向けて諸準備を進めてきたが、公民館などの既存の施設と機能分担するとともに、誘致した特別支援学校との複合施設であるという特性を活かし、本市ならではの「教育と福祉の連携」による地域に根差した利用しやすい施設となるよう努めていく。
- 各種団体活動の支援については、引き続き運営経費の一部を補助するとともに、社会教育関係団体登録制度を通して施設使用料の減免などを行うほか、これから活動しようとする市民への情報提供など活動しやすい環境づくりに努める。登録申請件数は、横ばいの状態にあるが、今後とも市民の自主的な社会教育活動を支援していく。
なお、ユネスコ活動については、平成23年度は、双葉小学校のユネスコ・スクール認定に向け活動中であり、今後とも計画的な認定校指定に向けた支援も検討していく。
- 社会教育事業の推進や関係団体の育成・支援にあたっては、社会教育主事の専門性に基づく指導・助言が必要である。現状充足している環境にはないが、今後とも人事部局に働きかけるなど適正な配置に向けた取組を進める。

施策（大項目）9 学習の拠点としての図書館サービスの充実

●大項目のねらい

図書館は、社会の発展を縁の下で支える施設です。子どもから高齢者まで多くの人々に開かれた施設である図書館は、情報が溢れかえる現代社会においても、市民の人生を充実したものとすべく、重要な役割を担っています。主体的に学び、活動しようとする人々の思いを受け止め、その実現を支援するため、生涯学習や地域文化の創造、郷土理解の重要な拠点として、市民図書館のサービスの充実を図りました。

●平成 22 年度の取組状況

情報発信を通じた生涯学習への支援

- ・ 開館 10 周年記念事業を行い、図書館利用の拡大を図った。
 ※主催事業 ゴーゴーゴー 10 周年（開館時間延長）、ボランティア・関係団体等交流会、10 周年記念講座「本のはなしいろいろ」、石狩の郷土史絵本「こがね色の海」～原画・七宝展～
 ※共催事業 「エジプトの魅力」、「三味線と朗読の和みの夕べ」
- ・ 図書館講座や特別展示などを行い、学習機会の提供を図った。

○図書館講座・特別展示等の実施状況

事業名	時期	内容
図書館講座	① 4/17（土） ② 7/31（土） ③ 9/11（土） ④ 9/22（水） ⑤ 10/17（日）	① 札幌と石狩～道都は何故札幌になったのか【参加 76 人】 ② 中高生はこれを読め【参加 68 人】 ③ 電子図書館って何？【参加 45 人】 ④ 地域の創造【参加 46 人】 ⑤ 地図を巡る冒険【参加 25 人】
特別展示	① 4/13（火） ～5/5（水・祝） ② 10/5（火） ～23（土）	① 榎本守恵の世界 ② 石狩まるごと地図月間「イシカリのかたち～地図から見た石狩の歴史」
特集展示	通年	テーマを設定して資料を展示し、各種情報を発信した。 (計 17 回)

- ・ 図書館ホームページの更新に努め、情報提供の充実を図った。
- ・ レファレンス記録の整理と研修を実施し、レファレンスサービスや資料提供機能の向上を図った。

サービスを支える基盤の整備

- ・ 「図書館だより」「子ども図書館だより」「図書館資料（図書館要覧）」の発行、図書館ホームページの内容の見直しと更新頻度を上げるなど情報提供の充実を図るとともに、図書館見学の体験を取り入れた館内見学ツアー等を実施し、開かれた図書館づくりを図った。
- ・ ボランティア活動団体の育成や協働等を進める取組として、6 月に修理ボランティア講習を実施したほか、読書活動関係団体及び各種団体との連携を進めた。また、ブックマーチ（本のリサイクル市）などを通して、石狩市市民情報活動センター「ぼぼらーと」との連携を図った。

期待に応える蔵書・情報源の構築

- ・ 基本的な資料の収集・整理・保存を中心に、児童書及びヤングコレクションの充実などを図るとともに、石狩や北海道に関する資料の収集を図った。
(4月～3月までの収集点数 13,552点、うち石狩・北海道関係資料 1,231点)
- ・ 4月に導入した新聞記事データベースをレファレンスに活用するなど、調べものに役立つ環境の整備を進めた。

【関連する主要事業】 事業評価シートを参照
図書館運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
石狩市の人口に占める利用登録者の割合	%	31	21	35

※利用者カード作成後3年間1度も借りていない人を除籍したため、減少した。

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
直近の1年間に受け入れた資料数が蔵書全体に占める割合	%	4.5	5.0	6.0

指標の名称	単位	プラン掲載実績 (H20)	実績値	目標値
			H22	H26
地域行政資料の点数	点	22,772	25,201	31,200

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 図書館新規登録者数については、図書館開館10周年記念講演をはじめ、各種事業の開催時にPRしたほか、ブックスタートパック配付時にPRするなどした結果、昨年度より348人多い3,167人となった。今後においても、市内の大きなイベントでのPRや転入者に利用案内を配布するなど、石狩市民の登録者数増加を図り、登録者全体における市民割合の増加も目指す。
- ・ 図書館講座や各種展示を実施し、本に関わる興味、関心を醸成するとともに学習機会の提供を図った。今後は、現在実施している、時宜を得た社会の話題などを反映した本を並べるミニ特集など、きめ細かなサービスの充実を図るなどして、更なる利用者サービスに努める。
- ・ 蔵書全体に占める新しい資料の割合は、13,552点(昨年度より2,056点増)の新規受入により5%となった。今後は購入だけでなく、寄贈受入体制も含めて魅力的な蔵書の整備を進める。
また、地域行政資料については、前年度比1,231点増を図ることができた。地域資料は、絶版・個人出版など流通していない場合も多く、寄贈を含めて受入体制を強化する。

- ・ 情報発信については、ホームページの充実や図書館の話題をお知らせする「図書館トピックス」を試験的に作成したほか、レファレンス研修を行って情報提供機能を高めた。今後も情報発信の機能を強化し、ホームページの更なる充実、レファレンス・ブックの充実やレファレンスの記録の整理を行い、市民の生涯学習を支援する。
- ・ 宅配サービスについて、現在は視覚障がい者の利用にとどまっているが、今後は厚田区・浜益区など、交通の不便な地域への利用促進を図る。
- ・ 分館でのサービス活性化については、蔵書の入替（全分館）や花川南分館のリニューアルを行った。今後も引き続き、リサイクルコーナーの設置（花川南）、分館だよりの発行（厚田）、リニューアル（八幡）を行い、充実を図る。
- ・ 開かれた図書館づくりについては、図書館だよりや図書館資料により、図書館の運営状況を周知したほか、利用者に図書館の裏側を知ってもらう「図書館見学体験ツアー」を開催した。今後は、「サービス向上月間」等を実施し、利用者のニーズを把握するとともに利用者とのコミュニケーションを図る。
- ・ 市民との協働については、ボランティア・団体と協力して読書推進を進めたほか、市民図書館の10周年を一緒に祝うことができた。今後は、これまでは少なかった男性のボランティアについても参加を呼びかけるほか、既存ボランティア・団体との協働により、読書環境の更なる充実を図る。

施策（大項目）10 石狩文化の活用による自主的・主体的活動の支援

●大項目のねらい

心の豊かさを求める時代において、市民がともに感動し、交流を図りながら、生活にうるおいや生きがいを見出すことが求められています。

質の高い、個性的な文化の創造を図るため、多様な芸術文化に触れ、創作活動への支援を図るとともに、「心のふるさと」としての地域を再認識し、新たな地域文化の創造を目指した環境づくりを進めました。

●平成22年度の取組状況

芸術文化に親しむ機会や交流の場の充実

- ・ 平成22年10月22日から24日まで（舞台部門は23、24日の2日間）の3日間開催された「第55回石狩市民文化祭」及び厚田・浜益会場、共催事業、協賛事業への支援を通して、市民が芸術文化に親しむ機会や発表・交流する場の充実を図った。

○第55回石狩市民文化祭の実施状況

部門	会場	実施日	内 容
展示会場	花川南コミセン	10月22日～24日	絵画・写真、書道、文芸（俳句・短歌）、手工芸、生け花、ステンドグラス等の作品展示、陶芸など
舞台会場	花川北コミセン	10月23日 24日	日本舞踊、伝統芸能（詩吟、詩舞、三味線、琴、大正琴、和太鼓）、洋舞（フラダンス、バレエ、ヒップホップ）、バトントワリングなど
厚田生涯学習フェスティバル	厚田小学校体育館	11月7日	〔舞台〕厚田区小学校音楽のつどい（器楽演奏等）、サークル発表（和太鼓、舞踊等）〔展示〕厚田区小中学生の作品展示（絵画・書道等）、サークル発表（手芸、絵画書道等）
浜益区文化祭	浜益コミセン	11月7日	〔舞台〕舞踊、カラオケ、浜益小劇場など、〔展示〕写真、パッチワーク、草木染め、ステンドグラスなど

○市民文化祭共催事業の実施状況

事業名	会場	実施日	内 容
いしかり菊 花展	花川北コミ セン	11月1日 ～3日	[展示品] 大菊（3本仕立て、1本仕立て、福助作り、布袋作り、だるま作り、数仕立て）小菊（懸崖作り、小懸崖作り、盆栽作り、玉作り、特作・アイデア作り）
クリスマス コンサート	花川北コミ セン	12月11日	出演団体／石狩エンジェル・クレア少年少女合唱団、南線小学校リコーダークラブ、花川中学校吹奏楽部、花川北中学校吹奏楽部、花川南中学校吹奏楽部、樽川中学校吹奏楽部、石狩翔陽高等学校吹奏楽局、石狩南高等学校吹奏楽部

- ・ 【24ページの再掲】市内小中学生を対象に音楽朗読劇や幅広い音楽ジャンルの鑑賞、演奏体験などの機会を提供する情操教育プログラムを実施した。
- ・ 【25ページの再掲】子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実を図る取組として、情操教育プログラムに加え、札幌広域圏組合が行うK i t a r aジュニアコンサート（主に小学6年生対象）に11校が参加したほか、「俳句のまち・いしかり事業」では、子どもの部（市内小中学生対象）で1,271作品の応募があり、子どもたちが文化芸術に触れる機会となった。また、「わたしの町のたからもの絵画展」への参加についても奨励した。
- ・ 市役所ロビーなどで、ロビーコンサート（3回）及びロビー展（6回）を実施し、身近に芸術文化を発表、鑑賞できる場を提供した。

市民の主体的な芸術文化活動の支援

- ・ 石狩市芸術文化振興奨励補助金の交付（4件）を通して、市民の自主的な芸術文化振興の奨励を図った。（交付団体等：泉流千翔会、NPO法人こども・コムステーション・いしかり、石狩ユネスコ協会、NPO法人ひとまちつなぎ石狩）
- ・ 地域創造アトリエ事業補助金を交付し、NPO法人アートウォームが行う芸術文化活動（創作活動・情報発信活動）を支援した。
- ・ 石狩市文化協会に対して拠出金を交付するなど、活動の支援を行った。なお、特に平成22年度においては、NPO法人化に向けた準備作業を支援した。
- ・ 地域に根ざした企業などが、文化芸術に関する担い手となる団体等へ継続した寄付を行うことにより、市の文化芸術の振興を図ること目的に、平成22年度新たに「石狩市教育委員会文化芸術支援制度」を創設し、第1号として(株)北海道丸和ロジスティクスにより、「NPO法人石狩市文化協会」への支援が行われた。

【関連する主要事業】 事業評価シートを参照

石狩市民文化祭事業・石狩市文化協会運営支援事業・地域創造アトリエ事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値	目標値
		(H20)	H22	H26
市民文化祭の入場者延べ人数	人	6,193	5,843	↗

※共催事業（ライオンズコンサート）が実施されなかったことにより、減少した。

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値		目標値	
		(H20)	H22	H26		
石狩市文化協会の主催・共催事業数	回	7	6	9		

※共催事業（ライオンズコンサート）が実施されなかったことにより、減少した。

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 市民文化祭については、プログラム等の広告掲載により財源を確保し、PRを充実させる取組や各世代に配慮されたプログラムづくりなどを進めるとともに、展示部門では「お茶席」「手打ちそばの実演・販売」を実施し、食文化も楽しみながら鑑賞できる環境づくりを進めるなどの取組が行われた。厚田会場では、多くの地元小中学生が参加して盛り上げる地域一体の文化祭となったほか、浜益会場では、旧石狩市の団体も参加して盛り上げるなど、地域間交流も図られた。今後も実行委員会の工夫をこらした「市民手づくり」の取組を支援していく。
- ・ 【29ページの再掲】情操教育プログラムについては、おしゃべランドに参加にした児童の95%以上が面白かったとアンケートで答えており、子どもたちの情操（芸術などに触れ感動する心）や豊かな感性、コミュニケーション能力を育み、協調性の大切さを学び、音楽が持つ可能性や素晴らしさを再認識してもらう事業として今後も継続していく。
- ・ 【29ページの再掲】「俳句のまち - いしかり事業」については、地域の方に俳句の指導をしてもらうような取組なども活用しながら、子どもたちが芸術に触れる機会のひとつとして引き続き実施する。
- ・ ロビー展・ロビーコンサートについては、市民文化祭開催月を除く11ヶ月で9回開催された。応募、集客とも堅調であり、市民の身近な芸術活動の発表・鑑賞の場として定着しているため、今後も継続して開催していく。
- ・ 石狩市文化協会については、組織基盤の強化を図るためNPO法人化に向けた支援を行い、11月に資格取得した。また、平成23年度には活動拠点として、石狩市学び交流センター内に事務所を設けたところであり、当該施設を利用した活動を支援していく。
- ・ 芸術文化の振興については、補助対象の3つの公演事業に合わせて741人が来場するなど、多様な芸術文化に触れる機会になっており、補助金による支援が市民の自主的な文化芸術活動を促しているが、補助事業のあり方について検討の余地があり、有識者との情報交換などを実施する。
- ・ NPO法人アートウォームの支援については、これまでの招へい事業などに加え、新たな展開として子育て世代の親子と一緒に楽しめる子育てカフェ事業の実施などにより稼働率が上がり、広く活用されるようになってきている。平成23年10月には、施設の賃貸借契約が満了するので、今後の方針について当該法人と協議をする。
- ・ 文化芸術支援制度については、地元企業の支援が、文化芸術を担う団体の活動に直接的に活かされ、「地域に根ざした企業等」「文化芸術に関する担い手となる団体等」「石狩市教育委員会」の3者の協力連携による文化芸術振興策として、有効であることから、今後もより多くの団体に支援がなされるよう、新たな支援企業等の確保に向けた制度のPRなどに努めるとともに、更に利用しやすい制度とするため内容等を検討する。なお、平成23年度には、制度第2号として、「協同組合三友環境保全センター石狩美術館」が「石狩ユネスコ協会」への支援を行うこととなった。

施策（大項目） 1 1 ふるさとを学び伝える取組の充実

●大項目のねらい

郷土への理解と愛着を深め、文化・伝統を継承するため、文化財を適切に保護、保存し、その活用を図るとともに、ふるさとを学ぶ機会の充実を図りました。

●平成 22 年度の取組状況

- ・ 9月に縄文土器野焼を実施したほか、紅葉山49号遺跡パネル展など学習機会の提供を行った。また、旧長野商店、旧白鳥番屋などの施設を一般公開するなど市指定文化財の活用を図った。
- ・ 9月～10月には、緊急雇用対策事業を活用し、はまます郷土資料館の資料整理を実施した。また、市民図書館と連携し講演会「地図からみた石狩の歴史」を実施し、情報の提供・発信を図った。
- ・ 地域の方々の熱意で発足した「あつた資料室リニューアル構想策定協議会」において検討を重ねた結果、厚田ゆかりの四人の著名人に着目した展示にするなど、特色ある資料館づくりの企画がなされ、地域との連携の中で厚田資料室のリニューアルを実施した。
- ・ 石狩ファイル刊行については、更新内容を市のホームページなどで、市民に情報提供した。平成 22 年度については、10月に10項目を更新した。

113 石狩の自然災害	114 石狩と伝染病	115 石狩海岸のカシワ林
116 石狩の淡水魚	117 石狩の海水魚	118 石狩浜の漂着物
119 快風丸	120 キタホウネンエビ	121 石狩市の年表
122 石狩のチョウザメ（生物編）		

- ・ 市民図書館や海浜植物保護センターと共催のテーマ展を開催したほか、体験講座・野外講座を開講するとともに、資料館研究紀要や地域誌資料集を刊行するなど、積極的に地域情報を発信した。

①テーマ展（展示）実施状況

タイトル	開催期間	備考
コシャチホネ／発掘編	4月29日～6月13日	
縄文土器をつくる～縄文土器の世界へ～	6月23日～8月1日	
昭和のマンガ・アニメキャラクターグッズ	8月8日～9月12日	
イシカリのかたち	9月15日～10月31日	市民図書館、海浜植物保護センター共催事業
資料館のお宝展 2011／めざめよ！剥製たち	1月22日～3月27日	

②体験講座・野外講座の状況

タイトル	開催日	参加者数	内容
石狩ビーチコーマーズ／春の漂着物	4月18日	25	石狩浜の漂着物を観察・採集し、正体を考える。
地層と化石／フィールド編	6月19日	15	800万年前の地層や化石を観察・採集する。
地層と化石／ラボ編	7月3日	8	地層の中のマイクロサイズの化石を観察する。
縄文土器復元講座	7月11日・24日	7	縄文土器を製作する。
勾玉づくり教室	7月31日	16	古代のアクセサリー、勾玉を作る。
化石のレプリカをつくる	8月14日	7	アンモナイトのレプリカを作る。
フライドチキンの骨格標本をつくる	9月4日	10	チキンから翼などの骨格標本を作る。
石狩ビーチコーマーズ／秋の漂着物	10月31日	32	石狩浜の漂着物を観察・採集し、起源を考える。
石狩大学博物館学部(全2回)	11月6日・13日	28	石狩の自然や歴史に関する研究成果を紹介する。
石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物	2月20日	18	石狩浜の漂着物を観察・採集し、起源を考える。

【関連する主要事業】事業評価シートを参照

いしかり砂丘の風資料館管理運営事業・厚田資料館管理運営事業・はまます郷土資料館管理運営事業

●分析・評価及び今後の方向性

【成果指標】

指標の名称	単位	プラン掲載実績	実績値	目標値
		(H20)	H22	H26
市内3資料館の延べ入館者数	人	4,409	5,868	5,000

※平成21年度は、4,373人

【分析・評価及び今後の方向性】

- ・ 文化・自然遺産の保護、保存、活用の推進については、市指定文化財旧長野商店、旧白鳥番屋など既存の指定文化財の保護保存を行うとともに、文化・自然遺産についての調査研究を進め、講座や資料の提供などを通じ、活用を進めていく。
- ・ 石狩市郷土研究会は、市内の文化・歴史の調査などを行い、その成果は毎年会誌「いしかり暦」で公表されている。こうした活動については、今後も継続して支援していく。
- ・ ふるさとを学ぶ機会の充実については、市内の遺跡についての講演会を開催するとともに、遺跡についての資料を作成して学校等に配布するなど、学ぶ機会の充実を図る。

- ・ 市内の資料館 3 館のうち、いしかり砂丘の風資料館及びはまます郷土資料館は、入館者が減少し、厚田資料室は大幅に増加した。
いしかり砂丘の風資料は周辺の保養施設（番屋の湯）の休業により、地域への入込み数が減少したことが大きな影響を与えたと考えられる。今年度は、展示室のリニューアルを行い入館者の増加を図る。
厚田資料室は、平成 22 年度に大幅に入館者増加（平成 21 年度比 639%）をみた。これは、ボランティアグループ「あつた資料室サポーターの会」（前「あつた資料室リニューアル構想策定協議会」）の熱心な活動の成果である。今後も厚田区の地域住民と連携を行いながら資料室の運営を続けていく。
はまます郷土資料館は、豪雨による被害で 8 月以降休館したため、入館者が減少したが、今年度は 5 月から公開を行っており、入館者数も従来の水準に戻ると考えられる。
- ・ 市内に 3 館ある資料館の整備については、全市的な資料館のあり方について文化財保護審議会において検討し、方向性をまとめる。平成 24 年度には、個別の資料館の整備プランについて検討を進める。
- ・ 博物館講座の開催については、市民カレッジ等による生涯学習講座の活発化を踏まえ、学芸員の研究成果を反映した資料館の独自色のあるメニューを提供していく。
- ・ ふるさとを学ぶ資料の整備については、市内の縄文遺跡に関する資料集の作成を進めていく。
- ・ 学芸員の採用については、平成 24 年 4 月採用に向け、現在募集を行っている。

=====

※学芸員の確保については、平成 21 年度教育委員会の点検・評価において、外部評価委員より、その必要性について意見をいただいたところです。

=====